



第44号 200円

シネマ気球©

編集兼発行人 関田孝正
〒270-0107
千葉県船山市西家井 339-2
TEL 04 (7153) 1533
FAX 04 (7156) 7122

『BLUE GIANT』

思い出のジャズを聴きたくなるような…

仲間内ですごいジャズブレイヤーのことをブルージャイアントと呼んでいた。温度が高すぎて、赤を通り越して青く輝く星から由來している。

ジャズに魅せられた宮本大（山田裕貴）は、独学でサックスに打ち込み、高校卒業後に上京しプロを目指す。建設現場で働きながらも、時間の許す限り全身全霊で練習し続ける。天才ピアニスト沢辺雪析（間宮祥太郎）や、素人ドラマーだが演奏への一途な熱量を持った玉田俊二（岡山天音）との出会いもあり、ジャズバンドJASSを結成する。

もともと巧くなりたいたい、世界一のジャズブレイヤーになるために。この瞬間に死んで生まれ変わって、成長し続け魂を吹き込む。大のサックスはほとぼるの情熱そのもので、圧倒的な音量とともに人々の心を惹きつける。その練習量は凄まじく、努力家の雪析や俊二も唸るほど。そんな大も二人の演奏を聞く度に、積み上げた時間を肌で感じ切磋琢磨しながら成長していく。

作中で印象に残ったのが、二人との実力差に悩みながらも日々励む俊二に、出待ちのファンが掛けた言葉。

「良くなっている。初ライブから八ヶ月、君のドラムは良くなってきた。僕は君の成長するドラムを聴きに來ているんだ」俊二の

腕をポンポンと叩きながら優しく微笑む。聴き続けることでわかるドラムへの一途な想い。俊二にとって、その一言がどれほど嬉しかっただろうと胸が熱くなり一緒に涙した。

作品終盤の演奏はまさに圧巻であった。それぞれの持ち味を存分に生かし、積み重ねた日々や想い一つのメロディーとなり、観るものの心を揺さぶる。感動的な音楽に触れた際の人々の心の描写や、演奏シーンを様々なデイストで表現しているのも面白い。線の一本一本が音を奏でるように、軽やかだったり、重厚感があったり。空気感、温度湿度までも感じられる。そんなJASSのライブを目にした大の師匠である由井（乃村健次）は「あのライブはとても青かった」と語る。

幼少期、父の個展に遊びに行った際、そこで流れていた音楽を今でも覚えている。穏やかなトランペットと女性の優しい歌声が体を包み込むようで、なんだか心地よいなと感じていたのが初めてのジャズであった。エラ・フィッツジェラルド&ルイ・アームストロング「Moonlight in Vermont」という名曲であった。想い出のジャズを聴きたくなるような、そんな気持ちになれる素晴らしい作品であった。

（絵と文・中田好美）

『銀河鉄道の父』宮沢賢治を支え続けた父の姿

忘れられた優しみの回帰

門馬徳行

「(とつとつと)うん」 どういう
 だろう」

「青いくるみも吹きとばせ?」
 この映画で、かなりの衝撃を受けたシーンは、病気で寝込んでいた宮沢賢治(菅田将輝)の長女とし(森七菜)のために、自分が作った『風の又三郎』の一節を語り聞かせる賢治の姿だ。

そして、終盤。

「雨にも負けず 風にも負けず
 ……」

「……そんな人に私はなりたい」
 余命幾ばくもない賢治に向って、それまで彼をずっと支え続けた父親、宮沢政次郎(役所広司)が「雨にも負けず」の詩を叫び続けるところだ。

○ これは、誰もが知っている宮沢賢治を37年間、ずっと支え続けた父親、正次郎の物語だ。彼は岩手県花巻で質屋を営み、実業家としても成功、地元では名士と言われているそう。だから、なかなか

自立できない(すねかじり)で、好き勝手な行動をとる息子(賢治)の後押しができたのだろう。そんな息子を突き離さずに、絶えず優しく見つめ続けた父親の視線がこの作品のテーマだ。今までに賢治を描いた映画はかなりあるが、本人ではなく父親に焦点をあてた作品は貴重だ。さらに、賢治は(ダメ息子)であった、という大胆な解釈(政次郎も所謂「親バカ」ということになるだろう)もユニークだ。振り返って見ると、いわゆる「天才」とか「偉人」と呼ばれる人物は、決して本人ひとりの力だけで生まれるものではなく、いかに周りの人たちのフォローが必要だったことがわかる。それは過去、何人もの天才たちの生きざまを通して語られた様々なエピソードがそれを証明している。結果的に、彼らは必然と偶然が重なった末に誕生したのだろう。とはいえず、いくら長男の賢治を溺愛しているからといって、赤痢で入院した病

室にすぐ駆けつけ息子の面倒をみる父親の行動。これには、違和感を持つてしまう。現代社会でもあまり見ない父親の姿だ。それゆえ、政次郎は自分の父親に「父でありすぎる。」と言われてしまうのだ。映画の時代背景が、総領、長男を重んじる家父長制全盛の明治、大正、昭和初期だったとしてもだ。賢治はそんな父親にすっかり甘えたのか、生涯、自己中心な生き方を模索する。店を継がず、人造宝石を作るとか農業や宗教活動にはまっけていく。息子をこよなく溺愛する父親に比べ、作品的には母親の存在が薄く感じる。もちろん、これは父親の映画なのだが。しかし、父親を描くということは、同時に母親を描くということだ。母親が息子を想う気持ちは、何ら父親に劣ることはない。ただ、当時の社会通念で妻は、常に夫から三歩下がらなければならぬ。だが、母イチ(坂井真紀)が、別れの時を迎えた賢治の体を拭くシーンが

応える。「私も賢治の親ですから」と。ここは、イチの意地を見せた瞬間だったのではない。たしかに、父親があのように息子を溺愛したら、母親の出番は少なく、イチには複雑な葛藤があったかもしれない。さらに、絶えず賢治を励まし続けた妹としの話もやや淡泊だった感がある。もっと言えば、としとのつながりの中から作品が生み出されたことは周知の事実。彼女の存在そのものが、賢治を語る上でのターニングポイントになりえるはずなのだ。しかし、時間制限されている映画はすべてを語ることはできない。よって、賢治を励まし支えたのは宮沢家全員(もちろん、中心は父親なのだが)だった、という俯瞰で作品をまとめたのではなからうか。つまり、賢治はこの家族から誕生したのだ、という宣言だ。

○ 比較的最近の賢治の伝記作品『わが心の銀河鉄道 宮沢賢治物



「銀河鉄道の父」

語』監督Ⅱ大森一樹、1996年）や、『宮澤賢治 その愛』（監督Ⅱ神山征二郎、1996年）における父親像は、おおむね厳格できびしく描かれていた。息子を溺愛する父親像ではなかった。『わが心の銀河鉄道』の父親（渡哲也）は、賢治にきつく接してはいたが、その人格は認めていた。賢治は夢の中を生きているんだ」というセリフがあったと思う。父親が街の議員に当選した祝いの席で、賢治の行動を批判する支持者に向かって息子の行動があなたに迷惑をかけたのか、と問い詰めるシーンにそれは表れている。さらに『宮澤賢治』の父親（仲代達矢）は、息子とは距離を置いていたような気がする。その表情は絶えず硬かった。質屋を継がず自由に生きようとする賢治に戸惑っていたような気がしてならない。本作は、あえて、これらとは真逆の子煩悩な父親像を作り出している。果たして、真実はどうなのか、知る由もないが、監督は、頑固一徹的な父親像ではなく、あくまで賢治を優しく見守り、時にはユーモラスな面も持ち現代にも通じる父親像を描いたのだ（原作は直木賞を取った門井慶喜、脚本は坂口理子）。

○ 本作の賢治も前2作同様に、どう生きていいのかわからずにのたうち回っている。何をやるかわからず、こんなに四苦八苦、悪戦苦闘する彼の姿を見るとは思わなかった。少なくとも、偶像化された宮沢神話は崩れている。大部分の人間は、どこかで人生に見切りをつけて生きていくものだが。純粋な彼はとことん悩み続ける。それは、自己破滅的な作家の辿る宿命であったのか。理解ある父親がいたので、なおさら、自分勝手、わがままな行動ができたのだろう。だから、父親に対して、いつも感謝の言葉を発している。さらに本作では、賢治の父親がかれの作品

をよく理解していたことも描かれる。ゆえに自費出版して売れ残った息子の本を買い占めてしまう。賢治にしても、自分の傍に一番の理解者がいたのだから、こんなに心強いことはなかっただろう。度重なる試行錯誤の最中、もともと体が弱かった賢治は病に倒れる。不幸にも、賢治の文学が評価されたのは彼が亡くなってからだ。賢治はラスト近くで「お父さんのようになりたかった」と告白する。「でも、なれなかった」と。賢治の願いや絶望や苦悩や葛藤から生まれた数々の詩や童話が一種異様な輝きを放つのは、物語の中で絶えず作者の叫び声が鳴り響いているからではなからうか。最終的に、賢治は稀有の作家になったのである、ある意味で父親を乗り越えたのではないかと思われる。そして、作家、宮沢賢治の誕生は、まぎれもなく父、宮沢政次郎の存在なしには語れないだろう。

○ ここに描かれたことが必ずしも事実とは思わない。監督もそれは認めている。これは、宮沢賢治の父親のフィクションだ。映画は観客のために作られたものであり、いかに監督が作家性を宣言しても、

観客が作品を認めなければすぐれた「映画」とはいえないだろう。要は、その人物が語る言葉や行動にリアリティがなければ、それこそ「嘘クサイ芝居」に見えてしまう。前述した父親が最後を迎えた息子に向かって、彼が作った詩を叫ぶシーンも（できすぎ感）満点だろう。だが、所詮、映画とは見世物だ。演出されたものだ。だから、このシーンは、いかに父親が息子を愛していたか、というパッションを感じとればいいのではないか。他にも、東北の風土を生かした2度の葬儀シーンも印象的だ。燃え盛る炎の中、賢治が念仏を挙げて歩き回る。自分とは違う宗教に浸透している息子の行動を許している政次郎。響きわたる太鼓の音。ここもワンシーンで撮った映像がリアリティを高めていて、2人の痛烈な情念が風景の中で迸っている。前半はユーモアを交えつつ描き、後半は暗い話になっていくのだが、避けられない悲劇としてうまく映画的に昇華させていたと思う。

○ 以前（もう40年以上前のことだが）賢治の『よだかの星』を8ミリでアニメ化したことがある。

外国映画の森へ3

森田 洋一

●劇場公開作品

①「ボーカフェイス裏切りのカード」

ラッセル・クロウ監督作品。冒頭期待させて、中盤で盛って、盛って、結末でうまくまとめたといった感じでした。セレブの高級住宅が舞台。どこかに舞台を絞り込んで、次々に謎解き、あるあるです。

② 「サンクスギビング」

笑えるほどのスプラッタームービー。グロイシーンの嵐、ここまですせるか、的な。逆にそのあたり、緊張感がない。黒幕が誰か、終盤気づく人いるかも。

③「瞳をとじて」

久しぶりのヴィクトル・エリセ
監督作品。「ミツバチのささやき」、
「エルスール」、学生の時劇場でみ
た。懐かしさがよみがえる一本。

④「アーガイル」

どんな返しで、結果の
 解釈も、みた人によって異なるか
 もしれない。続編、期待できる。
 「キングスメン」製作陣のため、共
 通項が多い。

⑤ 「キラ・ナマケモノ」

「コカイン・ベア」のスタッフがナマケモノが女子寮を襲う設定の作品を。スマホも読める、人の動きを予想する、しぶとい生命力と、

ホラーあるあるの要素がいっぱい。

●劇場で私ひとりが観客でした

（よい作品だけに、もったいない
・・・）

① 「ハンテッド 狩られる夜」

普段、お客がこないような田舎のガソリンスタンド、正体不明の殺し屋、見せ場を作るためのモブキャラ、三拍子そろった感じで、ラストまでなんとか引つ張る・・・B級感満載で、楽しめた作品です。

② 「コール・ジェーン 女性たちの秘密の電話」

エリザベス・バンクス主演。「コ

つて、どこかへ飛んでいきたくつたのではないか。だから、生涯もがき続けたのではないか。

主

主に父親目線から賢治の素顔に迫ろうとした本編は、伝記や偉人伝などを越えた生身の賢治の世界に果敢に肉薄しようとしている。

こんな慈愛に満ちた父親がそばにいたのだから、夭折はしたが賢治の人生はやすらかさに満たされていたかもしれない。しかし、今、親子間に限らず人と人の関わり合いの中で、優しさの眼差しはあま

O

突風のように、若干37歳で人生を吹き抜けた賢治の姿と、絶えず彼を支え続けた政次郎の慈しみに満ちた眼差しが、しばし脳裏から離れない。

(2023年5月5日 公開)

カイン・ベア」が面白かっただけに期待。共演がシガニー・ウィーバー。女性の自立、政治への参加や訴えと、かなり良質の内容でした。テーマ的にも、現代に通ずるかと。70年代の雰囲気、女性の立場がよく描かれているし、展開も満足いく内容でした。

●ラオール・ウォルシュ監督作品

ギャング映画が得意な印象の監督さん。「白熱」(1949)「ハイ・シエラ」(1940)「彼奴は顔役だ」(1939)「遠い太鼓」(1951)「南部の叛逆者」(1957)「いちごブロード」(1941)「大雷雨」(1941)が個人的におすすめ作品。

①「恐怖の背景」(1943)

第二次世界大戦中のトルコが舞台。ソ連とドイツ、イギリス領に囲まれ、中立であるもののスパイが暗躍。ジョージ・ラフト、ピーター・ローレ、ブレンダ・マージヤルとユニークな組合せ。冒頭出てくる、アナ・オルセンというデンマーク女優が魅力的。切れのよい演出が見どころ。当時の世界情勢を垣間見ることが出来る。

②「路上のライオン」(1953)

ジェイムズ・キャグニーが知事

にチャレンジする役柄。共演のアン・フランシスが自由奔放な感じに印象に残る。原題を訳すと、「ライオンは街角にいる」というニュアンス。「オール・ザ・キングスメン」とよく比較される作品。投票日に雨が降ると投票率が下がることもこの作品からわかる。

③「金髪乱れて」(1932)

スペンサー・トレシーとジョーン・ベネットのラブコメディ。人情味あふれる港町、警官とギャング、人が集まるバー、ユーモアある演出と基本をしっかりとおさえている。30年代前半の作品なのに、今鑑賞しても充分楽しめる作品。早口のセリフが展開を面白くしている感じ。

④「バワリイ」(1933)

バワリイとはニューヨークの一角。下町人情劇のような感じの作品。ウォーレンス・ビアリーとジョージ・ラフト主演。「キング・コング」(1933)のフェイ・レイが花を添える役柄で出演。20世紀ピクチャーズ第一回作品。

⑤「私の彼氏」(1946)

アイダ・ルピノ主演のメロドラマ。女性の自立と居場所を求める、といった二つのテーマを題材にしたように感じられた。恋愛、ホー

ムシック、弟と妹に対する姉のふるまい、と並列に描いているため、何も考えずにみると、退屈でメリハリのない都会でありがちな物語のような印象を受けるかもしれない。

⑥「追跡」(1947)

ロバート・ミッチャムとテレサ・ライトの組合せ。冒頭のシーンから回想につながり、ラストの展開へ、といったパターン。西部劇にサスペンスの要素を入れた感じ。テレサ・ライトの感情の変化に着目して鑑賞すると面白い。

⑦「限りなき追跡」(1953)

ロック・ハドソンとドナ・リード(「素晴らしき哉、人生!」(1946)、主演。悪者を正義の味方がひたすら追いかけるような展開。リー・マービン、ネヴィル・ブランド(TVの「アンタツチャブル」アル・カポネ役)が脇役で出演。

⑧「死の砂塵」(1951)

「ハイ・シエラ」(1941)。ハインフリー・ボガードとアイダ・ルピノ主演)の西部劇版が「死の谷」(1949)、その後同じスタッフで製作されたのが本作品。ヴァージニア・メイヨが続投、カーク・ダグラスの西部劇初主演、脇にウオルター・ブレナン(アカデミー

助演男優賞三度受賞の実力派)。ストーリーは、あるある的な感じ。終盤からラストへの展開がラオール・ウォルシュ監督らしい感じがする。

注目女優

①フローレンス・ピュー

「ミッドサマー」、「ストーリー・オブ・マイライフ わたしの若草物語」、「ブラック・ウィドウ」、「ドント・ウォーリー・ダーリン」、と印象に残る役柄と演技。「デュイン砂の惑星PART2」、「オッペンハイマー」でも重要な役を演じていた。これからが楽しみな女優さん。

②アニヤ・テイラー・ジョイ

引きの演技、演じたキャラを印象付ける、目力の迫力、素晴らしいと感じた女優さん。「マッドマックス フュリオサ」、「ザ・メニュー」、「ラストナイト・イン・ソーホー」といずれも、強烈な印象・・・。

クラシックシネマ

①「ストレンジジャーズ6」(1949)

ジェニファー・ジョーンズが、銃撃戦のシーンすごく上手にこな

映画「オッペンハイマー」 から何を学ぶか

片桐 公男

今年の米アカデミー作品賞に輝いた話題の映画を観に行きました。世界初の原爆開発を指揮して「原爆の父」と呼ばれた理論物理学者オッペンハイマーの「栄光と悲劇」、

しているのが印象。キューバの独裁権打倒を描いた骨太の秀作。

②「夏の夜の10時30分」(1996)

ロミー・シュナイダー代表作の一本。個人的に、「地獄のかけひき」(1968)「セクシーガール」(1958)をみて、ファンになりました。「華麗なる女銀行家」(1980)を劇場でみたとき、感動。

離愁」(1973)「追想」(1975)「地獄の貴婦人」(1974)「ルードヴィッヒ 神々の黄昏」(1972)「枢機卿」(1963)「トリブルクロス」(1966)「サン・スーシの女」(1982)と作品ごとに

印象が違い、個性的な素晴らしい女優さんと思います。

今回、紹介するのは、「日曜はダメよ」(1960)のジュールス・ダ

そして苦悩を描いた映画でした(クリストファー・ノーラン監督)。日本では戦前のわが国に不都合な部分は美化したり、歪曲する「歴史修正主義」が一部にみられます。ノーラン監督が自国の負の部分を描き出した勇氣に称賛を贈りたいです。

映画は第二次世界大戦が終わった1954年の米国原子力委員会聴聞会の場面から始まり原爆製造・実験などを繰り返る形式で進みます。戦前オッペンハイマーは、スペイン人民戦線の集会に参加したり、兄の影響もあって大学の教授や研究者の労働組合結成など左翼勢力との接触や共産黨員女性との肉体関係が映画では描かれます。

■ロスアラモス研究所長に任命

そんな彼は43年10月、米核開

ッシン監督夫人のメルナ・メルクリも出ています。音楽や舞台となる土地の雰囲気鑑賞してみてもいいと感じました。内容自体はシンプルです。

③「暗殺の森」(1970)

ジャン・ルイ・トランティニヤンの代表作、ドミニク・サンダが知的な美女といった感じででています。「ラストタンゴ・イン・パリ」(19

発「マンハッタン計画」のロスアラモス研究所長に任命されます。

その研究所は、砂漠の中に60km四方の広大な地に研究者や労働者を雇い原爆製造を目指します。軍服を着て得意になっている彼に批判的な研究者も現れたりしますが、軍の支持を得て計画はすすめられます。

同じ頃、ドイツでも核開発が進められていることが耳に入り「ドイツより先に」を目標に開発が急ピッチで進められていきます。

■45年7月16日実験は成功

原子爆弾の実験が行われる日、激しい風雨によって延期されますが、翌朝には雨風がやむとの予測から世界初の実験が実施されます。顔には紫外線除けの液体を塗り、光線除けの眼鏡をして核実験のボ

72)「1900年」(1976)のベルドリッチ監督。絵画的な風景に、人物をあてはめたような場面、無言の中に何かを語る心理描写、あえて無の中に有をひとつ目立たせる演出と、かなり凝った印象。ラストの展開は、トラウマになるほど、何もしないことの恐ろしさをみせつけてくれると思います。

タンが秒読みですすめられていきます。核実験のボタンを押す係員が「心臓が悪い」とボヤキながらボタンを押すと、真赤な炎と空中高く上がるキノコ雲、そして大地を揺るがす轟音と熱風、砂埃が実験に立ち会った研究者たちに襲いかかります。実験は成功しロスアラモスの研究者、軍人たちは抱き合って喜び合います。

■投下地は日本の11の都市に決まり

45年5月ヒットラードイツは連合軍に降伏します。それを受けて米国は原爆投下地を日本と決めた具体的な都市を選定します。「大都市ではなく中都市」と決め12都市の候補地が選定されます。当初は入っていた京都は計画から外され11都市が決まりました。



「オッペンハイマー」

実験成功から僅か20日、8月6日にヒロシマ、その3日後の9日に長崎に投下された原爆は、すでに私たちが知るように大量虐殺が行われ、その後今日に至るまで被爆者は孫子の代まで苦しめられてきました。しかし、投下した米国では「戦争終結のための原爆投下」と、その正当性を主張する世論は今日まで生きつづけているのです。ヒロシマに投下された原子爆弾の結果は、いち早く米国内へ伝わり国民は沸き立ち、「オッピー、オッピー」と彼の愛称を声高に叫びます。オッペンハイマーは英雄気取りで市民から熱烈に歓迎されます。また、大統領にも招かれ祝福を受けたりして絶頂期を迎えています。しかし、戦後のアメリカは、

ソ連や中国革命の成功から共産主義に対して警戒を強めオッペンハイマーも過去の「アカとの接触」が問題視され「赤狩り」の対象者になり「公職追放」となります。日本でも50年の朝鮮動乱期に多くの共産党員が公職追放や民間企業から「レッドパージ」を受けました。私は当時10歳でしたが、この事件はよく記憶に残っています。1924年、オッペンハイマーはイギリスのケンブリッジで物理学を学んでいました。その後、ドイツのゲオルク・アウグスト大学ゲッティンゲンに留学し博士課程に進みます。そこでは著名なドイツ人物理学者ヴェルナー・ハイゼンベルクなどとお会いしました。核使用の現実味のなかでロシアのプーチンがウクライナ侵攻を開始して3年目を迎えました。またイスラエルがガザでジェノサイドを行ってアラブ諸国と激しく対立するなど、キナ臭い動きが活発化しています。プーチンも北朝鮮のキム・ジョンウンも核威嚇をチラつかせています。世界でも日本でも核に対する関心が高まるなか、映画の題名からして「難しく重い映画」と思いつつ映画館へ足を運びました。米国、ロシア、中国な

ど、核保有大国は口を揃えて「核抑止力」を主張しますが、事態は「核による脅し」となり平和に敵対する世界を作り出していると考えるのは私だけででしょうか？一人、二人殺しても殺人罪として罪を受けます。戦争で何万人を殺してもその指導者は罰せられないのでしょうか。来年2025年にはヒロシマ、ナガサキへの原爆投下から80年を迎えます。核大国や核の傘の下にいる国の指導者には、互いに「核による威嚇」や「核抑止力論」をふりかざすのをやめて核廃絶に真摯に向き合うことを求めます。各国が政治体制やイデオロギーの違いを超えて平和共存することを願うばかりです。世界で唯一の被爆国である日本政府は、被爆者の願いに応えて核廃絶を世界に向けて発信していく義務があるのではないのでしょうか。最後に余談、内容が重いだけではなく上映時間が3時間30分と長く、イスに座っているだけなのにすがたいへん疲れました。80歳代になると「映画を観るのも体力がいるなあ」と思い知らされました。(笑)

以上



友人が70歳になって俳句を始めました。毎朝食事前に散歩しながら俳句の題材を探すのだとか。

→こういうのを「ハイカイ老人」というですね。(本書より)
これまで書き溜め、人様の前で発表したダジャレ160篇を一挙公開!

山田 徹・著

新書判 200頁／1000円＋税

I S B N 978-4-902387-27-8

ダジャレ工房



ごめ書房

〒270-0107
千葉県流山市西深井339-2
TEL 04-7156-7121
FAX 04-7156-7122

ゆるい映画好き

パート3

中川恵彦

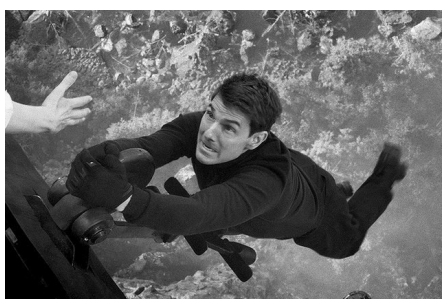
個人の評価 星5つで満点

変わらずミーハーな映画好きです。

2023年6月以降の劇場で観た作品の紹介です。

6月2日「怪物」

カンヌ国際映画祭、脚本賞を取った作品です！世間では好評化の作品のようですが、私的にはまああといった感じでした。



「ミッション・インポッシブル／デッドレコニングPART ONE」

高畑充希さんの無駄遣い!!が一番印象に残っています。

ラストシーンの解釈も難しいと思いました。 星3・9

7月24日「ミッション・インポッシブル／デッドレコニングPART ONE」

シリーズ7作目です。2h43と長い作品です。途中で眠くなったりましたが、楽しく観られました。

PART TWOは来年の5月23日の予定のようです。もう一回ONEを観てからですね。 星4・1

9月18日「ミステリと言う勿れ」

漫画からドラマ化され、映画化された作品です。菅田将暉さんの久能整役がハマっていてかなり良い作品だと思いました。

原菜々華さんのこれからの活躍にも期待です。 星4・2

10月9日「アナログ」

完全に波留さん目当てで観に行きました。ビートたけしさんが初めて書き上げた恋愛小説が原作です。

二宮和也さんの演技も流石で、

ほっこりと楽しめました。

星3・9

1月3日「SPYxFAMILY CODE…White」

人気漫画からアニメ化された作品です。名探偵コナンばりに無茶な場面が多いですが、観た後に気持ちいがスッキリする作品です。漫画もアニメもまだ続いているので、また映画化されそうです。

星3・8

2月12日「君と世界が終わる日にFINAL」

2021年1月から地上波で放送されて、シーズン2は同年の3月21日から4月25日に・シーズン3は2022年2月25日から4月1日にかけてHuluで配信されました。シーズン3の配信に伴い、2022年2月25日の「金曜ロードショー」枠で特別編が放送されて、シーズン4の配信に伴い、2023年3月19日に日本テレビ系「日曜ドラマ」枠にて完全新作1時間スペシャルが放送されました。劇場版を上映しているのと同時にシーズン5がHuluで配信されました。

映画の内容はFINALにふさ

わしく、本当に最後の作品なんだなと思わされてかなりさみしくなりました。 星4・2

4月29日「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」

毎年恒例となっており、今年で28作目です。今回は一言でいうと難しいと思いました。例年次回の予告が結構流れていたのですが、来年の予告がほとんど公開されないまま終わったので、楽しみがふくらみます！ 星4・1

5月27日「ミッシング」

とにかく石原さとみさんの演技が鬼気迫るもので、わざわざ髪を傷めるためにボディースーツで髪を洗ったりしたそうです。

内容としては重くて暗い内容でしたが、作品の流れなどは良いものと感じました。 星4・2

6月から私が観たいと思う作品が、「あんのここと」「違国日記」「デア・ファミリー」「朽ちないサクラ」「映画 おいハンサム!!」「言えない秘密」「からかい上手の高木さん」など沢山あるので、どんどん劇場へ行きたいと思っています。

韓国映画「愛に奉仕せよ」

考察

堀江広子

韓国のチャン・ Cholス(50歳)

監督による作品である。物語の舞台は韓国ではない。言語や人の名前は韓国語で、国を明らかにしていないが、文化大革命時代の中国のようだ。中国の閻連科(えん・れんか)というノーベル賞候補作家と目される小説家の「人民に奉仕する」という作品を映画化したものである。

エロチックなシーンが多いこの映画は、筆者にとって近年にない刺激的で印象的な作品となった。

文化大革命中の社会

映画のセンセーショナルなキャッチフレーズが、上官の妻と炊事

兵との禁断の情事とか、愛欲に溺れる一兵卒と上官の妻、などと好奇心を煽るものとなっていた。観たいと思ったのは、主人公である炊事兵ムグアンを演じるのが韓ドラでお馴染みの、ヨン・ウジンという俳優だったから。彼の困惑する表情の演技が好きで、誠実な役柄の多い彼が、エロチックなシーンをどのように演じているのか興味を湧いた。

時は文化大革命の真っ最中である。中国全土でこの改革の嵐により、およそ二千万人ともいわれる人々が粛清されたり、餓死したりしたとされる。ムグアンの上官である師団長の家には、偉大なる指導者毛主席とおぼしき指導者の肖像画が飾られ、神格化された語録が何よりも日常に息づいている。十四歳で党員となって抗日戦争から始まる戦禍における数々の英雄的な戦闘により箱一杯にもなる勲章を受け誇りと自信に満ち溢れている師団長。もっと上へさらに上へと出世への飽くなき野望に満ちている。部下たちは、学歴もない農村出身の身の上から何とか抜け出そうと上司にひたすら忠実であろうとする。ムグアンは主席の著作を熱心に読み、語録を全て暗唱

出来、優秀な成績を収めていた。男たちは、それぞれ哀しいくらいに闘いに明け暮れている。そんな中で師団長の妻、スリヨンの極めて個人的で秘められた苦悩は、決してくだらないものだと思えるべきではなく、むしろ必然で且つ尊いものとも言える。

師団長は戦争で負傷した時に性的不能者となる。スリヨンはその事は知らされぬまま歳のかかり離れた二人目の妻として嫁いできたが、家から外へ出ることが許されていない。かつては師団病院の看護婦で、これまた優秀な革命分子として役目を担っていた。幼い頃に貧困により一家離散の憂き目にあい、ムグアンより悲惨な境遇から必死に抜け出て学び、その美貌と国への忠誠心ゆえに師団長に見初められ、贅沢を享受する現在。炊事兵としてそのまじめさを買われ、師団長の公邸に炊事兵として勤務しているムグアン。炊事、洗濯、庭の手入れ、畑仕事一切を任されている。スリヨンより四歳年下で畑仕事に汗かく彼を、スリヨンは双眼鏡で彼を子細に観察していた。田舎には妻子がいる二十八歳の若いムグアンの逞しい体に惹かれていたのだ。ムグアンとその

妻の関係は、奇妙なものであった。上司の計らいで結婚が決まった時、彼は、軍の幹部に登用されるよう努力し、給料を上げてもらい、妻を田舎暮らしから町暮らしにさせることなどの誓約書を書かされ、新婚初夜にも誓いを立てよと迫られ、ムグアンは妻との関係に幻滅を感じていた。それでも子が産まれ、良き家庭人として妻子にお金を送るのだった。

二人の濃密な関係

ある時、師団長は、一カ月程の出張で家を留守にするからと妻に告げる。実は師団長自身がわざと留守にして、予想される結果を作り出していると思われる。円満な家庭を持ち、その上で出世も目指すというのが男の論理とするならば、スリヨンに対する夫としての性的な務めが不可能だとしても二度目の離婚は避けなければならないと感じているであろう。内心は複雑だが、上の者に従順で真面目なムグアンに託そうと考えたに違いない。

ムグアンと二人きりとなったスリヨンは、偉大なる指導者のスローガンである「人民に奉仕する」を理由に上司の妻でもある自分にも奉仕せよと迫る。食卓に置いて

あるスローガンの書かれた置物が、別のところにあるたびに、二階の寝室に来るようにと命じた。こうして二人の関係が始まる。

スリヨンの誘惑を二度拒絶した後、この先の出世を絶たれる恐怖に耐えきれず、彼女の命令に従うことにしたウグアン。やがて徐々に彼を酔わせる香しいスリヨンの姿態に夢中になっていく。スリヨンは、女としてもういつ死んでも構わないと言うほどにウグアンとの関係にのめりこんでいく。

赤いハイヒール

ある日、ムグアンは、スリヨンに自転車外に出て見ないかと誘う。

スリヨンは、靴を持っていないと答える。外に出る必要性がないから買ってもらえないと。

筆者はこの場面で気持ちが凍り付いた。昔の中国の風習である纏足を思い浮かべた。身分の高い婦人は纏足といって幼いうちから足をきつく縛り成長出来ないようにし、大人になってもヨチヨチ歩きしか出来ない。文字通り自立と逃亡を阻む残酷な風習。国を統治し、社会の制度や慣習を作ってきた男たちによる理不尽極まりない仕打ちであった。

ムグアンは、スリヨンに赤いハイヒールを贈り、彼女をズタ袋に隠し自転車に積み、門衛のいる師団から抜け出して野原でくつろぎ、つかの間の自由を楽しむ。

二人の意識

二人は互いに想い合い、この上ない幸福感を味わう。然しながら彼らの生きている存在意義を考えたとき、ムグアンもまた、まごうことなきその時代の男である。ある日、汗ダクになった服を彼は妻に向かって言うように、スリヨンに「おいこれを洗っておいでくれ」と命令をする。スリヨンは、この男は何を言っているのという顔で無視をする。男女の仲になっても身分が違うのである。スリヨンも元々は農村出身ながら、今は、師団長という中国共産党社会に組み込まれた階級で、上の方に属する男の妻なのだ。今や越えられない階級は、二人の意識を容赦なく分けている。このシーンは、原作にき

つちり書かれているから、重要な部分であろう。監督は見逃さずこのくだりを入れた。が、意外なことにこの出来事をきっかけにして、スリヨンとムグアンの関係が一段と深くなり、お互いをもっと想い合うことになる。

やがてスリヨンは、自分の勘違いかもしれないが、妊娠したかもとムグアンに告げる。

二人に芽生えたそれぞれの怒り

映画は、立場を超えた男女の愛を描いているように見えるが、どんな男もどんな女も、頭の中全部が相手ひとりにだけに向けられているわけではない。相手を利用したり、ちよつとした罠を仕掛けたり、権力をバックに横柄になったり、色々な打算がはたらくのは仕方のないことである。純愛と性欲と野望とエゴとが二人の心に巣くっているのだ。

エゴをむき出しにし、互いに罵り合い憎み合うのだが、この事が二人の何を刺激したのか、偉大な指導者の肖像画を割り、語録を引きちぎり、家じゅうをめっちゃめに散らかしまくり、愛しまくる。彼らは怒っていた。それぞれに、心の中に芽生えた何かに。

師団長が戻り、二人の関係が終焉を迎えたとき、ムグアンは長い休暇を与えられ、妻子の元に帰った。故郷での彼は、心の均衡がとれていないかのような行動をとる。長年に渡り刷り込まれていた主席のスローガンに再び目覚め、子供にもあたるようになり、妻を苦しめる。妻の父親は激怒し、誓約書を破り捨てお前を見損なつたと見捨てるところが暫くすると、国が運営する工場長として勤めるよう辞令が来た。スリヨンの口利きと思われる。

そして十五年後、ムグアンとの間に出来た息子を産み育て、師団長はさらに出世し司令官となり、門衛が立つ洋風の豪邸での家族三人の暮らしが映し出される。スリヨンは、暫く帰ってない故郷に行つて兄弟に会つてきますと言いつつひとり家を出る。二度と家に戻ることはなく、その後の消息は途絶えた。あの赤いハイヒールを履いて。エンドロールが始まつてからのこのシーンはうっかり見逃しそうなが、原作には書かれていないこのシーンが、スリヨンとムグアンの行く末を語っているようだ。

国家と個人を書く作家、閻連科

映画を見終わってから、作品の原作者が中国の作家であると知り、翻訳本を読んでみた。

まず驚いたのは、作家の卓越した豊かな表現力である。夫への尊敬も持ち、義理や義務感を感じながらも、美しく魅力的な肉体を持つて余すわが身に悶々として家に閉

じこもるスリョンの日常や、日の光に輝く花や夜空に瞬く星々への感嘆の表現が尽きることなくじつくり味わうことが出来る。徐々に変わっていくムグアンの気持ち、細かに綴られているのだ。そのため、ムグアンという男の考え方や人間性がまざまざと読者に訴えかけてくるのである。門切り型ではなく、どこにでもいそうな男の実像がくつきりと見えてきて大変面白かった。

作者は、現在六十五歳、彼が書

『君たちはどう生きるか』

福田良夫

ジブリ作品を初めて映画館で観た。当然であるが、テレビで見るとより落ち着いてみられた。また、これも当然であるが制作本数が多くなり、作品の質に波がでてるのも仕方がない。それでも、そこそこのアベレージといえよう。

見終わって最初にうかんだのは、『君たちはどう生きるか』というタイトルと内容がどう関わっているのかなという疑問だ。映画では、このタイトルは書物のタイトルとしてでてる。戦争前後のものである。実際に、この書物があるのかどうかや、どんな内容なのか

いた小説は反共産党の傾向があるとし、殆ど発禁処分となっているという。現在も尚、厳然と存在する都市戸籍と農村戸籍という差別で国民を分ける中国共産党に対する怒りが込められた作品が多い。かつての偉大なる中国共産党の指導者毛沢東主席を侮辱し、性的描写が過激過ぎてケシカランということだ。閻・連科は、十年ほど前に東大で講演もし、日本でも知人ぞ知る作家である。彼は、この小説が運命に翻弄されてずつと旅

は知らない。映画全体が、このタイトルに関わっているということなのだろうか。具体的なつながりがわからない。

さらに、このタイトルは、大きなクエスションを生む。現在では、この問いは古いのではない。もつと言え、今では無効なのではないかという思いだ。このタイトルは若い人向けであろう、10代、20代、30代などの人たちがどう考えているかわからないが、わたしにはすでに意味がないといえる。わたしたちが戦後に生きてきた答えでは、「どのように生きるのも自由だ」ということだ。この問いは、その答えの確認の意味でしか、有効ではない。

宮崎監督の世代が、このような

をしているようだを書いており、なるほど日本で売られているのも運命なのかも知れない。今回こうして映画を通して中国の現代小説に触れる事が出来たのは私の運命だったと感じる。封建的な統治国家から文化大革命へと拙速に打ち出した中国。人民は自己の幸福より人民のために奉仕することを強いられた。その実相は国を統治する上の者たちの飽くなき権力闘争だったのだろう。権力闘争に打ち勝った新しい指導者が、人民を統

問いを発する気持ちはわからないではないが、すでに意味がないといえる。

もつとも、タイトルと中身は異なる。一つ、二つ、気づいた点を述べる。

主人公のおじさんの世界に入り込み、おじさんに代わって世界を支配することを強要されるシーン。これが映画の主なテーマといえよう。おじさんの世界は不老不死の世界なのだろうか。おじさんの生きていく世界がちつとも魅力的に見えない。これに比例して、作品の切実さが伝わってこない。母親を助けるにしても、たんに助けるだけになっている。おじさんの世界が比喩として生きていないといえる。

制するために作った規則に服従するうちに、人民はそれがあたかも自己実現する上でなくてはならないものとして心身共に取り込み、マインドコントロールされていく。一方で、どうしても拭い去れない個人の心の自由や幸福への思いとの軋轢に苦しむ人々。人間の持つている本能的な望みを、国家によって絶たれ、避けられぬ運命に左右される不条理が浮き彫りにされていた。

終わり

これは、監督が違えば『すずめの戸締り』でも感じたことだ。地殻変動(地震)を予防するために、すずめが活躍するが、単純な自然現象のようで、何かの比喩になっていない。そのぶんストーリーに膨らみがない印象を受ける。

メインのテーマで比喩に魅力がないと、個々のエピソードが面白くても全体としてしっくりしない。もう一つ、単純な疑問だが、同級生と喧嘩をした主人公が、そのあと石ころで自分の頭を傷つけるがその理由が判然としない。学校に行くのが嫌になったのだろうか、喧嘩をしたくなかったのだろうか、よくわからない。

全体として、いま一つの出来だったのではないかと思う。

この一篇:『にがい米』

星 文子

最近小学生にも円形脱毛症が増えていると行きつけの鍼灸治療院で聞いた。子どもの社会にもストレスが蔓延しているのだろう。かく言う当方も向こう気が強い割にメンタルが弱いせいで脱毛症は何度か経験している。幸い髪が太くて濃いため、美容師さん以外に気づいた人はいなかった。しかも脱毛症と気づくころには再生が始まるのが常だった。それで脱毛症ぐらいでは慌てなくなった。

数年前のある日気づいてみると後頭部中央の髪が縦方向になくなっていった。頭頂部も地肌が見えて毛根の痕跡すらない。日に日に脱毛の範囲は広がっていくばかりだ。

どうもいつもとは様子が違うと思っていたら新聞にコロナワクチンの副反応で脱毛症になることがあるという記事が出ていた。さて、どうしたものか？

皮膚科に行ってもステロイド軟膏を処方されるのがせいぜいだろう。長期間頭にベトベトする軟膏を塗り続けるのは願い下げにしたい。それ以外の治療法はないかとインターネットで調べてみると、うれしいことに鍼という字が目に入った。早速馴染みの鍼灸院で尋ねてみると治療実績があるという。

頭に鍼を刺されるのには抵抗があったが背に腹は代えられない。そのころには眉毛もすっきり抜けてしまっていたから贅沢を言える状況ではなかった。もともと円満な顔相とはほど遠い上に眉毛すらないとなんとも不気味で、朝一で眉を引かないとゴミ出しにも行けない有様だった。外出には帽子が必須。そんなわけで出不精に拍車がかかり通院以外に出かける機会はめっきり減った。当然映画を見るのもインターネット頼みだった。

主に利用した配信サービスの評価は以下のごとし。
◎TSUTAYA…リクエストをすると素早く宅配してくれ専用の

封筒に入れて投函返却できるのでこのサービスは結構利用した。話題の新作から往年の名画、ドラマまでさすがに在庫の豊富さは抜群で、根気強く検索すれば思わぬ拾いものに出くわすこともあった。

見逃していた往年の名画のラインナップが充実しているのが特にあるがたかつたが、古い映画の場合、届いたDVDが再生できないことや映像が途切れるトラブルが何度もあり、その場合の対応がサクサクとは行かず利用をやめた。

◎JAIHO…JAIHOに登録しておくとならばもちろん世界各国の選りすぐりの作品を一定期間自由に鑑賞できるシステム。作品の選定も幅広く興味深かったものの、紹介される作品が多すぎて見るのが追いつかない。見たいというより見なければと追い立てられるようで登録を解除した。

◎アマゾンプライム…アマゾンプライムは会員なら無料で視聴できるので、主に映画を見るのに利用している。新しい作品はもとより昔の話題作が充実していてありがたい。古い作品は制作年代別にまとめて紹介されているので『雨月物語』とか『地上より永遠に』など題しか知らなかった古い映画を

確認できたのは望外の幸い。特別話題作でもなく人気俳優が出演しているわけでもないちよつと前の韓国映画が紹介されていることも結構あるので定期的にチェックする楽しみもある。

◎Netflixでは主にドラマを見ている。中国、香港、台湾、タイなど昔の(10年以上前の)青春ドラマは内容も刺激的ではなく、当時の時代風俗が垣間見えて興味深い。アメリカのドラマには深刻な問題を取り上げながらも娯楽性も兼ね備えた逸品があり、さすがだと感じさせる。それに比べて韓国ドラマは無駄に残酷なシーンが多く、内容があざとすぎる上に、長尺ものが多く一旦見出したら時間を取られること必定的なので敬遠気味。ドラマを選ぶときの決め手は出演者の見かけというミームハーダが、意外とそれで大外れはない。韓国にはルックスが苦手な俳優が多いので、話題作でもついパスしてしまうことも多い。

この一篇:『にがい米』(1949イタリア)

監督…ジュゼッペ・デ・サンテイス

出演…ヴィットリオ・ガスマン

／ドリス・ダウリング／シルヴァーナ・マンガノ／ラフ・ヴァロ―ネ

北イタリア、ポー川の北の稲作地帯には見渡す限り水田が広がっている。広々として水が張られた田圃はまるで湖のようだ。その水田の田植えや草取りをする女性はモンデイーナと呼ばれ、毎年5月イタリア各地から出稼ぎ労働者が集まる。また、彼女たちを運ぶための専用列車が何本も用意される。そんな折も折、宝石泥棒を企てた間抜けな悪党ウォルターと、情婦フランチェスカ。まんまと宝石を手に入れたものの、それが贖物で自分たちが警察に追われる身になったことを知る。ウォルターは宝石をフランチェスカに預け姿を消す。

訳もわからず汽車に乗せられたフランチェスカは、毎年出稼ぎに來ているシルヴァーナと知り合い、モンデイーナとして働くことになる。ワンピースの裾を下履きに手ばさんだ姿は半世紀ほど昔の近所のおばさんたちの姿と変わらない。仕事が終わる夜になるとダンスの好きなシルヴァーナは昼間の労働の憂さを晴らそうと踊る（この場面はYouTubeで見ること

ができる）。「今が楽しければOK。明日のことになど心を煩わすことはない」という享樂的な彼女の性格がよく表れているこのシーンは結構長く、今見ても扇情的で衝撃的で、日本公開当時（1952）の日本男児にとつては目を見開いて見るのさえはばかられたのではあるまいか？

草取りの苦役も半ばを過ぎた頃、警察を振り切ったウォルターが農場に現れると、シルヴァーナはしやれた身なりでダンスも上手な彼に惹かれていく。彼女の好意を利用すべく盗んだ首飾りをプレゼントすると、偽物とも知らない彼女はすっかり彼を信じ切ってしまう。ウォルターは、倉庫に大量にある米をトラックで盗み出す腹づもりだったのだ。倉庫番も仲間に取り入れ、周到に実行準備が進められる。その計画を知ったフランチェスカとマルコはなんとか犯行を阻止しようとする。

農作業の終わりを祝う打ち上げの最中、シルヴァーナは犯行を助けるために水田の畦を切り崩し、皆の関心を引きつけようとする。シルヴァーナと対峙したフランチェスカは、ウォルターが実は悪党で、首飾りも偽物、シルヴァー

ナは利用されているだけだと論ず。それを聞いたシルヴァーナはウォルターを撃ち殺し、櫓を指す。刈り入れ間近の田圃に渦を巻いて流れ込む水流が眼下に広がる。ことの重大さを悟り、パニックに陥ったシルヴァーナは櫓の上から身を投げる。

◎稲作と言ってもイタリアで栽培されるのはカルナローリという大粒で粘りの少ない短粒種で、リゾットなどに利用される。

◎モンデイーナの40日間の報酬は現金ではなく現物のお米5キロほど。映画の終盤、頭陀袋に入れてもらったお米を担いで帰路につく姿が見られる。

◎劇中、雨降りで作業ができず、手持ち無沙汰なモンデイーナたちが歌う歌の中にメロディを知っている歌があった。「山の太尉」というイタリア民謡。日本語の歌詞では「山の太尉は傷ついた・・・」

・「山岳戦専門部隊の太尉が主人公だが、映画の字幕では「ガブリエツラは愛しい男に捨てられて・・・」となっていた。しかし大尉もガブリエツラも死を前にして「私の身体を5つに切る」ことを頼む部分は同じだった。身体を5つに切るのは難問ではない

か？ イタリアでは5つに特別な意味もあるのだろうか？ どうかご存じならご教示願いたい。

◎シルヴァーナ・マンガノをスクリーンではじめて見たのは『アポロンの地獄』というギリシャ悲劇に材を採ったパズリーニ監督の映画。1967年の公開だから、当時37歳。ひたすら妖艶な印象しか残っていない。それが1949年にはあんなに澀刺とした少女だったとは。韓国に『十年たてば山河も変わる』ということわざがあるが、まさに至言。

私生活では『にがい米』のプロデューサーのディノ・デ・ラウレンティスと1949年に結婚し、映画出演を続けながら4人の子女を設け、1989年に亡くなっている。聚合離散が常の芸能界で若くして結婚しながら、「死が二人をを分かちまで」添い遂げているのは珍しい。

★ワクチンの副反応による頭髮の脱毛は鍼治療の甲斐あって、帽子が不要なレベルまで回復した。昔に比べると頭髮が細くなり、数も減ったけれど1年前に比べると大進歩。さすがに怖くて5回目以降の接種は受けていない。

映画との出会い

石井宏明

私は小学生時代を映画館主の父の友人の紹介で、東京都杉並区の高円寺で過ごした。父の友人の経営する映画館は目と鼻の先にあり、しかも無料で入ることができた。当時の三流映画館は、二本立て、三本立ては序の口で、時には四本立て、五本立てというのもあった。近くの映画館は邦画上映館であったが、時には洋画もあり、玉石混交の三流映画館であった。



「鞍馬天狗 角兵衛獅子」美空ひばりと嵐寛寿郎

母は、歌も芝居も巧みな二枚目時代劇俳優、高田浩吉の大ファンであった。

そんな母の血を受けたのか？私も子どもの頃から映画館に入り浸っていた。

禁煙とは名ばかりの、あちこちで紫煙のたなびく三流映画館であった。

高校時代は中央線の阿佐ヶ谷駅に途中下車して、駅前のオデオン座で、洋画の西部劇やミュージカル映画に胸を躍らせた。

私は今、映画館で映画を観ること、この当り前のことができる幸せを感じている。

大きな画面と大音響、観客が一体となって画面に集中する、これは映画館ならではの醍醐味である。

そんな環境にない方々には申し訳ないが、映画は映画館で観るに限る、と私は思っている。

現在徒歩か自転車です十分以内に映画館が三館もあるという地の利に恵まれている。

これからも動ける間は、映画館で映画を観るといふ、当たり前のことが当たり前にできる幸せを満喫していきたいと思っている。

完

映画と時代

白木桂子

ここ何十年も映画館にはご無沙汰している。そのうちテレビで放映されるだろうとモノグサを託っている。

映画の初めの記憶は戦後の小学校の巡回映画である。

疎開先の埼玉の田んぼの中の学校で、通学に30分以上かかった。

稲穂や麦の穂、菜の花、れんげ、つん花（茅花）。遠くに富士山を望み、冬は雪の中を友達と追いかけてつこをしなが、季節季節を楽しんだ。

映画も楽しみの一つだった。講堂に暗幕を張り、全校生がギューギューに詰込まれながらも目を輝かせた。

あまり憶えていないが、母子物が多かった様に思う。

松島トモ子、白鳥みずえ、三益

「少林寺拳法シニア流山健康クラブ」(代表者＝青柳武)は、一般財団法人少林寺拳法連盟の管轄下にあり、少林寺拳法の技法のエッセンスを取り入れた手軽な運動により、健康増進を目的として活動しています。流山市立常盤松中学校・武道場で週2回(火曜・木曜、夜7時から1時間半)、流山市コミュニティプラザで週1回(金曜、朝10時から1時間半)練習しています。

愛子の名前を思い出す。

少し経て、町の映画館で嵐寛寿郎の鞍馬天狗を観た。

長い顔を黒頭巾で包み、白馬に乗って現われる。客の子供達は待ってましたとばかりに下駄履きの足で板張の床を踏み鳴らし、騒音に興奮した。杉作は誰だったのだろう。美空ひばりの時もあった様に思う。

たまに母が浅草の映画館に連れて行ってくれた。ディズニーの「ダンボ」「バンビ」などに会った。目の表情が可愛かった。

その後大型スクリーンの時代があり、「十戒」「風と共に去りぬ」等を観た。

今はスマホの中に映像を見ることと出来る。

何とすごい変化の時を過ごしたのだろう。

もしかすると現実の時間以上に長い時代を生きたのかもしれない。
(2024年4月)

「炎のランナー」

坂根和子

2024年の夏はパリオリンピックが開催される。丁度100年前の1924年にもパリでオリンピックが開かれているが、その時に実在したイギリス代表選手の若者を描いた映画が「炎のランナー」である。

主人公の一人は1919年ケンブリッジ大学に入学したユダヤ人のハロルド・エイブラハム。もう一人はスコットランド人牧師のエリック・リデル。エイブラハムは周囲から潜在的な差別と偏見を受けており、そのうつぶんをはらすように走ることにのめり込んでいく。一方のリデルは牧師としての信仰と走ることの両立をめざし、家族との葛藤をかかえながら故郷の野山を走りまわる日々を送っていた。

イギリス国内競技大会が行われた時、エイブラハムはリデルに敗れがっかりしている時にプロのコーチから声をかけられる。当時はアマチュア精神が重んじられていただけに、大学関係者からもプ

ロの指導を受けることに難色を示される。それでもエイブラハムはプロからのトレーニングを受け入れ走り方を見直していく。

結果、エイブラハムとリデルは100m、200mの代表に選ばれ、他の仲間と共にパリへ向う。

リデルは到着後、記者から100mの予選日がキリスト教の安息日である日曜日であることを知らされ、出場を辞退する。そこに本来400mに出場予定の選手から「自分は110mハードルで銀メダルをとったので400mを譲る」との申し出があり急遽出場を決める。しかしこれはフィクションで実際は100mの予選日が発表された数カ月前から短期間ながら400mのトレーニングに励んでいたようだ。

大会本番200mでエイブラハムはアメリカ人選手に完敗。落ち込む彼にコーチや仲間が励まし100mでは見事優勝。映画では近くのホテルから見守っていたコーチがセンターポールにユニオンジャックが上がり国歌が流れた時大喜びするシーンが大変印象的である。400mではリデルが優勝。まさに神のために走るを実行する。史実ではリデルは200mは銀

メダルも、4×100mリレーではエイブラハムも銀メダルを獲得している。

又、この映画ではメインテーマが何とも心躍る曲として有名である。2012年のロンドンオリンピックの開会式では大スクリーンに海辺のウエストサイドをランナーが走る一場面が写し出され、サイモン・ラトル指揮、ロンドン交響楽団がテーマ曲を演奏する演出がなされた。メダル授与の表彰式でも使われたそうだ。

今回の33回オリンピックではどんなドラマが繰り広げられるか楽しみである。

サラリーマンの感涙を誘った「新・プロジェクトX」挑戦者たち」

田中 稔

最近リバイバル放映が開始された「新・プロジェクトX」について、私の感じたことを考察してみた。この映像は国井雅比古・久保純子のかつての名コンビの司会進行で進められた、旧作アンコール映像が放映されたものである。最

初に「プロジェクトX」が始まった頃、テレビ放送が始まると、飲み屋からサラリーマンの姿が消える時まで言われ、オジサン族から絶大な人気を博した番組であった。私もその中の一人でした。「サラリーマン技術者達の執念の逆転劇」なる映像の副題を読んだだけで、興味津々でした。何故なら、私が映像の舞台となった「日本ビクター」とは比べ物にならない、中小企業サラリーマン技術者だったからでした。中島みゆきの「地上の星」は見事に物語にマッチしていて感動的で元気をもらえます。

舞台の背景となった日本ビクターに在って家庭用VHSビデオ事業部に、「高野」が事業部長として赴任して来た。この部門で日本ビクターは業界8位、「高野」が来た時点で事業部の借金は10億円、横浜市神奈川区にその工場はあった。「高野」は赴任初日から1週間会社を休んでいる、サラリーマン的発想からは考えられない休暇取得だが、左遷人事であることは明らかで、会社に対する物言わぬ抵抗なのだろう。社内に活気はなく、仕事が行けると何時もの居酒屋で仕事のストレスを発散させた。世のサラリーマン諸氏も思い当たると



「太田」同じく技術者で優しい性格の「梅田」この二人を高野に引き合わせた技術部の「白石」、4人で新型VHS方式の試作機の開発を始めている。当時「日本ビクター」は中堅家電メーカーで、1位ソニー、2位日立、3位松下、価格や機能から見ても

ではないだろうか。「高野」は昭和二十一年「日本ビクター」入社、地味な映画機業界に配属。この頃、業界のトップはソニーが席巻していた。

昭和四十七年、会社側はビデオ事業部の利益に結びつかない開発部門から製造部へ50人を左遷させた。この時良いものをもたらたと「高野」は思った。この日から「高野」の仕事に対する取り組み方が変わった。毎日のように通っていた居酒屋には行かず、職場からまっすぐ帰宅する「高野」の変わりように妻は驚いたという。会社の上層部には内緒で「高野」は4人だけの影のプロジェクトを立ち上げた。気の強い有能な技術者「梅田」同じく技術者で優しい性格の「太田」この二人を高野に引き合わせた技術部の「白石」、4人で新型VHS方式の試作機の開発を始めている。当時「日本ビクター」は中堅家電メーカーで、1位ソニー、2位日立、3位松下、価格や機能から見てもそれが現実であった。高野はこの時業務用VTRの製造を行っていたが、返品が後を絶たず、赤字は毎月10億円を出していた。その為、会社の上層部からは220人のリストラの命令が「高野」事業部長に出された。しかし「高野」は受け入れず、経理の専門家「大曾根」を経理課長に招き、本社とのパイプ役として当たらせた。「大曾根」はウソの経理報告書をでっち上げて、ひたすら会社の上層部に頭を下げて回った。技術開発課の「上野」を営業に配置転換し影のプロジェクトに誘った。彼は客と話をする中で、何を家庭用VTRに求めているのかを聞き出し、その背景を整理してメンバーに伝えた。当時テレビの2時間番組を1本のテープで納める技術の開発、小型軽量の本体が求められていたのだった。さらに「高野」は製品の部品を作ってくれる下請けの社長達を、以前足しげく通った居酒屋へ招待し、ビールジョッキに小さなグラスを浮かべその中にウイスキーを入れて沈め、アルコール度数の高い「バクダン」なる飲み物で社長らを接待し、「お前のところでなければだめだ！」と繋ぎとめたのである。それをしなければ儲けの少

ない仕事しか出せない、自分たちの会社は縁を切れかねないからだ。「高野事業部長」はプロジェクトリーダーとして有能な部下にめぐまれたのではなく、部下のやる気を引き出し仕事に対する情熱を醸成させている。苦勞人「高野」の寡黙で忍耐強い人柄が部下の信頼を得たのだ。

彼はこのプロジェクトが失敗に終わった時、自分が責任を取り会社を辞めて、事業部270人全員に自分の育てた盆栽を送るために、自宅で手入れをしていた。正に背水の陣で臨んでいました。「高野」の夢は巨大産業を作ること。「高野」は「迷いは上昇志向の証拠」「部下を大切にして首切りはしない」と自分に誓っていた。ソニーがベータ方式のビデオを発売した3か月後、徹夜が続いた影のプロジェクトチームは、ベータ方式より高画質で5kg軽いVHS方式のビデオの試作機を完成させた。直ぐに日本ビクターの親会社である松下電器社長「経営の神様」の異名を持つ「松下幸之助」に見てもらうため、ビクターのプロジェクトルームで「松下」に見てもらった。緊張の瞬間だった。「松下」は機械の内部をまじまじと見て説明

を聞き、一言「ベータMAX」は100点、「VHS」は150点。その夜自宅に帰った「高野」は饒舌に妻に仕事の話を語った。普段は家に帰れば仕事の話など口にしていない「高野」だが、抑えていたものが一気に口をついて出たのだらう。4年の歳月をかけた「VHSビデオ」を「高野」は「無条件に他社に公開する」方針を示したのだった。サラリーマンなら考えられないことだ。特許権を取得し、会社の利益を最優先に考えるのではなく、大手メーカー（シャープ・三菱・日立）を訪問、公開した。これにより、各社の得意技術を集結して更に性能が向上、軽量化がなされ各社からVHS方式のビデオ機器が発売された。海外メーカーにもその技術は公開され、ついにはVHS方式のビデオは世界標準規格に採用されたのだった。ソニーのベータMAXを抜き、販売台数で遂に1位となったのは、日本ビクターが「VHSビデオ」の発売開始から4年後だった。エンディングテーマ「ヘッドライト・テールライト」が流れる頃には、涙が自然に流れていた。

令和六年六月十日
(イラストも筆者)

「映画と私」

大江 茂子

私は昭和二十八年生まれの七十七歳、私の小さい頃は近くに三番館の映画館があり、三本立てで映画全盛期、隣のちんどん屋のおじさんにまだ小学校に上がる前からせがんで映画館によく連れて行ってもらっていました。

その頃の映画館は立ち見OK、

小さい私はおじさんに肩車をしてもらい、なんだか解らないながらピストルの音にビックリしたり、思えば日活アクション映画や東映の時代劇を見ていたと思います。今でも時代物は好きです。当時は映画と映画の間に「おせんにキヤラメル、アイス」を売り歩く声や上映中もお客さんの喚声や笑い声が絶えず熱気ある場内でした。小学校高学年から中学にかけて加山雄三の若大将シリーズ、高校

では学校から行った「栄光への五千キロ」「チップス先生さようなら」友人と行った「ロミオとジュリエット」「卒業」「オリバー」等、卒業してからは「砂の器」「復讐するは我にあり」「鬼畜」等風と共に去りぬ」を見てから「サウンド・オブ・ミュージック」を見て帰って来た時は頭の中がごちゃごちゃでした。池袋でお弁当持参で「人間の条件」八時間を一気に見たのは楽しかった、疲れを知りませ

んでした。そして三十年程前、浅田次郎原作「壬生義士伝」これは最初テレビドラマで渡辺謙主演でやり後に中井貴一主演で映画になりました。新選組の隊士を描いた作品は沢山ありますがこの作品に私は強い衝撃と感銘をうけました。最近はいくさん作品を見る事が出来ませんが、映画館という空間は私の心を満たしてくれる所です。これからも度々足を運びたいと思っています。

『大脱走』

(原題: The Great Escape)

大築 猛

スクリーンのオープニングは第二次世界大戦下、ドイツの田舎道を、多くの捕虜を乗せた軍用車両が連なり走って行きます。バックにはアップテンポの不朽の映画音楽「大脱走マーチ(The Great Escape March)」が流れ、これから始まる高揚感と緊張感がどんどん盛り上がります。たどりが着いた場所は、

ナチス軍の捕虜収容施設スタラグ・ルフト。ナチス軍は、たびたび脱走を計る連合軍捕虜たちに手を焼いていました。敷地に鉄線を張り巡らせ、見張りを強化したこの収容所は、脱走不可能とされていました。そこに連れて来られたのは、脱走を何度も繰り返す英軍を中心とした連合軍の強者たちです。元々収容されていたロシア人たちは別の施設に移動させられます。捕虜収容施設のフォン・ルーゲル所長(ハンネス・メッセマー)は、連合軍捕虜の先任将校ラムゼイ大佐(ジェームズ・ドナルド)に対

して「この収容所から脱出することとは不可能だ。無駄な悪あがきは辞めて、おとなしくせよ」と言います。しかし、到着するや否や、喧嘩を始める面々。その騒ぎの裏で、収容所外に作業へ行くロシア人に紛れ込もうとする者。トラックの荷台に飛び乗る者と、隙あらば脱走を試みる兵士たちでしたが、看守長に見つかってしまします。その中でも、アメリカ兵のバージル・ヒルツ(ステイブ・マックイン)は、大胆に見張りの死角を突き、鉄線へと近づきます。「何してる！」見張りに見つかり銃で

威嚇されるヒルツでしたが、「針金を切って逃げるところさ」と懐からハサミを取り出します。即刻、独房行きます。騒動から遅れること数時間、「ビッグX」と呼ばれる男が収容されます。英軍のロジャー・バートレット(リチャード・アッテンボロー)です。ロジャーは、これまでも集団脱走のリーダーとなり、脱走を企ててきた要注目人物です。何より、脱走する目的は敵軍を混乱させ、勢力をそぎ、祖国の勝利に貢献する軍人の中の軍人です。その夜、ロジャーは馴染みの兵を集結させ、なんと25

特集 映画の思い出

少林寺拳法シニア流山健康クラブ

0名の大脱走の計画を告げます。ざわつく捕虜兵たちでしたが、誰一人反対する者はいませんでした。作戦は、森へ一番近い2つの部屋を「トム」「ディック」、食堂の床を「ハリー」と名付け、計3本の穴を掘るといふものでした。表面からは真面目に生活し、見張りを油断させます。その裏で、「トンネル王」と称されているウィリー（ジョン・レイトン）とダニー（チャールズ・ブロンソン）を中心に穴掘りが始まりました。必要な物資は、米国人だが英空軍の義勇飛行隊に所属していた「調達屋」のアレン・ヘンドリー（ジェームズ・ガーナー）が、機転を利かせドイツ兵から奪ってきます。コーヒー、タバコなどの嗜好品から、鉄くずや身分証明書まで、何でもそろいます。一方、独房に入れられたヒルツは、隣の部屋に入っていた英国軍人のアイブスと知り合います。お調子者のアイブスと血気盛んなヒルツは共に脱走計画を企てていました。独房を出たヒルツに、ロジャーは脱走の話を持ち掛けますが、助けはいらないと単独で行動を起こすヒルツ。脱走を決心したものの、まんまと捕まり独房に逆戻り。それでもまだ懲り

ない様子のヒルツに、皆もあきれ顔です。ロジャーの計画は、隙がないほど順調に進んでいました。かき出した土の処理を担当する「分散屋」エリック。穴に空気を送り込む装置を作る「製造屋」オーストラリア人のセジウィック（ジェームズ・コバーン）。森までの距離を計測する「測量屋」デニス。脱出後の準備もぬかりありません。身分証明書、旅行許可証を製作する「偽装屋」コリン。人数分の私服を用意する「仕立屋」グリフィス。ドイツ語、フランス語を教える「情報屋」マック。訓練されたプロの技の見事な連携プレイで計画は進んでいきます。監視の目に見つかることはないものの、穴掘りは土壌の弱さで苦戦してしました。ロジャーは作業を「トム」に絞り、空洞に支柱を入れることで穴を強化することにします。脱走の予定日が迫っていました。そしてまたしても、独房からヒルツとアイブスが復活です。ヒルツは、ロジャーの穴掘り計画に協力しようか迷っていました。そんなヒルツに、ロジャーは協力を仰ぎます。その役目は、森のむこうの情報が欲しいというものでした。いわゆる、一度脱走を成功させ、わざと

捕まり戻ってこいと言うのです。ヒルツは、バカげていると断ります。その日は、7月4日、アメリカ独立記念日でした。アメリカ兵のヒルツとゴフ、米国人のヘンドリーは、じやがいもから作った酒を振る舞い祝います。太鼓と笛の陽気な音楽に、他の収容者たちも外に出てきて、酒を楽しんでいます。賑わいの最中、見張りのドイツ兵に「トム」の穴が見つかりてしまいました。一変して空気の張りつめる収容所。アイブスは気を逸らそうと、自ら鉄線へよじ登ります。鳴り響く銃声。駆け寄るヒルツは押さえつけられます。アイブスは撃たれ、命を落としました。ヒルツは決意します。一人でも多くの者を脱走させる。今夜外へ出る。欲しい情報をやる。ヒルツはロジャーに協力を約束しました。ヒルツは監視の目が行き届かない場所を見つけ、鉄線を切り見事脱走を果たします。そして、再び捕虜収容施設スタラグ・ルフトに戻ってくるのでした。3度目の独房行きです。その魂に皆の士気も上がります。穴堀は食堂の穴「ハリー」に全精力をかけていました。予定の距離にまでもなく到達しようとしていました。しかし、脱

走を前に悩みを抱える者もいました。「トンネル王」のダニーは、度重なる落盤で閉所・暗所恐怖症を患っていました。仲間に迷惑をかけないように、鉄線越えを決行しようとしています。共に掘ってきたもう一人の「トンネル王」ウィリーが、事前に気付き体を張って止めます。「俺にまかせろ、大丈夫だ」。そして「偽装屋」コリンは、人数分の偽造証明書の細かい作業の疲れから、進行性近視になっていました。脱走にかけるコリンは、もうほとんど見えなくなった視力のことを隠そうとします。ロジャーはコリンの目のことに気付いていました。リーダーとして、連れて行けないと決断します。そこに居合わせた同室の「調達屋」ヘンドリーは、自分が一緒に逃げるとロジャーを説得。皆の絆は深くなっていました。いよいよ脱走の日です。独房からぎりぎり、ヒルツが戻ってきました。「間に合った」。外部情報を基に脱走後の計画を練ります。仕立てた私服に着替え、夜を待つ面々。穴は真つ直ぐ森へと伸びているはずですが。ヒルツが貫通した穴から外を覗くと、なんと6メートルほど足りませんでした。ヒルツは、ロープを持ち森まで走りま

す。看守が過ぎた所で、ロープを引き合図を送るという作戦にでました。1人ずつ確実に森に走る脱走兵たち。途中、空襲で電気が消えたことでペースが乱れてしまいました。看守に気付かれました。穴は見つかり、一斉に捕えられる脱走兵たち。翌朝、発表された脱走兵の人数は76名でした。脱走に成功した者たちに追っ手がせまります。ロジャーはマックと共に列車に乗っていました。フランス人に成りすました2人は、上手く警察の目をごまかします。同じ列車には、コリンとヘンドリーも乗っていました。警察の取り調べが入っているのを察したヘンドリーは、他にも乗っていた仲間に知らせながら、コリンを連れ最後尾へと向かいます。列車から飛び降り追っ手から逃れたコリンとヘンドリーは、軍の練習用飛行機に乗り込みスイスを目指します。スイスの山々が見えてきたことを、コリンに教えるヘンドリー。コリンも嬉しそうです。その時、飛行機に異変が起きます。不時着する飛行機。煙で2人の居場所が知られてしまいました。コリンが、やってきた

ドイツ兵に射殺されてしまいます。ヘンドリーは諦め、捕まりました。列車の到着駅では、ドイツ軍が待ち構えていました。検問にはロジャーとマックを知る人物が、今にも拳銃を構え狙いを定めています。それにいち早く気付いたエリックが、自らの身体をはって2人を逃がします。その場を逃れたロジャーとマックでしたが、執拗にやってくるドイツ兵にとうとう捕まってしまう。次々と捕まっていた脱走兵たち。脱走に成功したのは、ボートを漕ぎ貨物船に乗り込んだ「トンネル王」のウィリーとダニー。そして、自転車でフランスに逃亡し、レジスタンスの協力ですペインにたどり着いた「製造屋」セジウィックの3名だけでした。捕虜を乗せた収容所行トラックには、ロジャーを始め50人の脱走兵が乗っていました。「今思えば、穴掘りは幸せだったな」。ロジャーはマックと健闘を称え合っていました。「降りろ」。ドイツ兵によってトラックから降ろされる50名。機関銃の音が炸裂します。50名は収容所に戻ることはありませんでした。一足先に収容所に戻っていた

たヘンドリーたちは、射殺の事実を知らされます。1人ずつ犠牲者の名前を悲痛な面持ちで読み上げる連合軍捕虜の先任将校ラムゼイ大佐。そこに、戻って来た男がひとり。そう、不屈の男ヒルツです。ヒルツは脱走後、盗んだバイクで国境を越えようとしたが、あと一步のところでドイツ軍の執拗な追跡に合い転倒し捕まっていた。「ただいま」。独房王のヒルツの復活です。「お帰り」と、ゴフはいつもの野球グローブとボールを渡すのでした。独房に向かった彼の反骨と闘志は消えることにはなかったのです。

この映画は1963年公開のアメリカ映画で、ステイブ・マックラインがバイクでスイスとドイツの国境地帯を逃げ回り、鉄条網を超えるシーン、そしてラストの独房のキャッチボールは強烈に記憶に残っています。痛快な脱走ストーリーは、テンポ良い展開と、ウィットに富んだ粋なシーンの数々に、あつという間の172分でした。

最後に、ステイブ・マックラインは1960〜1970年代を

代表するハリウッドスターで、出演した西部劇「荒野の七人」で注目を浴び、「大脱走」では主演を務め、その後アカデミー賞にもノミネートされました。小刻みに動く透き通ったブルーな瞳、クールでカッコよくて、アクション満載の演技は、私たちを充分楽しませ夢中にさせてくれました。一方、私生活は波乱万丈で、孤児院、少年院で荒れた少年時代を過ごし、海兵隊に入隊し、韓国戦争にも参加しました。さらに3度の結婚と離婚を繰り返し、幾度の浮名も流しました。肺がんと診断され1980年に50歳の若さで亡くなりました。遺作は「ハンター」(1979年)でした。もうあんなスターは出て来ないかも知れない。半世紀経っても彼の雄姿は私たちの心の中でまだ生き続けています。「荒野の七人」(1958年)、「華麗なる賭け」(1968年)、「ブリット」(1968年)、「ゲッタウェイ」(1972年)、「パピヨン」(1973年)、「タワリング・インフェルノ」(1974年)は素晴らしい懐かしい作品です。

以上

見た映画から

2023年末〜2024GW

柳橋和郎

「映画〇月〇日、区長になる女。」

(東中野ポレポレ2024/1/3)

監督は、ペヤンヌマキ、杉並区在住です。

杉並区に女性区長が誕生した事は知っていましたが、そのドキュメンタリー映画が公開されると知り封切りの1/2に予約しようとしたら満員、1/3予約できず続きました。映画が始まると頭に監督が登場、これは思ってもいない展開で、なんだこの映画はと吸い込まれて行きました。映画を作るきっかけを話し始め、どんどん進んで行きます。黒猫同盟(上田ケンジと小泉今日子)の歌が流れ良い効果でした。選挙事務所の開設から、市長の私生活の一部も、本筋ではありませんが朝コーヒーを飲まない、と言いコーヒーを本人がさっさと淹れていたのが印象に残りました。市民の応援隊も増え、お年寄りの応援隊との対立が

あったりしましたが、僅差で女性区長は誕生しました。その後区議選で杉並区はバリテ(女性が半数を占める)を達成。応援隊の中から議員になる女性もいました。議員という敷居が高いと思いますが、沢山の女性がこの映画を見て議員を目指してほしいなと思いました。2024年日本のジェンダー・ギャップ指数は156カ国中118位、これを解決するには女性政治家が増えないと駄目です。「PERFECT DAYS」(TOSHIOシネマズシヤンテ2023/12/30)

監督ヴィム・ヴェンダースが渋谷区のユニークな公共トイレ、いろんなデザイントイレがあります。一番有名なのは、外から見えるスケルトンのトイレでしょうか、使用する時は見えなくなります。安藤忠雄、隈研吾、他有名デザイナーが参加。その公共トイレの存在が気に入って映画を作ったのかと思いましたが、違いました。このトイレはユニクロの柳井取締役が発案していた事業で、デンソーの高崎卓馬氏が柳井取締役役のカウセンセラーとなりトイレの在り方等意見を出し合っている中で、このトイレを元にした映画を作った

たらどうかとなったようです。俳優の役所広司は初めからイメージに入っていました。そしていろんな監督を候補にして選んだのがヴィム・ヴェンダースで、結果として高崎氏の原点だった人となりました。

渋谷区の公共トイレの掃除を職業とする主人公の毎日殆ど変わらない生活を、会話はほとんどなく日々をたんと描いています。しかし映像からはいろんな気持ち伝わってきます。平凡な日々の生活の中での人々との出会いがあります。主人公は朝起きて布団をたたみ、顔を洗い仕事に車で出かけます。必ずカセットで音楽を聞きながら現場まで行きます。車でかける音楽はなかなか通好みです。アニメルズ、ルー・リード、キンクス他、監督の好みようです。仕事は淡々といつもと同じルーティンで終わらせまます。その合間、合間には通行人や仕事仲間の若い後輩の人生の出来事も入ってきます。仕事から帰り寝る時布団を朝と同じように敷き本を読み寝ます。また朝を同じように迎え元気に仕事に出かけます。同じ毎日を淡々と描いています。見た後は、さて日々の生活同じように頑張ろうか

なとなります。

「パターソン」(新宿武蔵野館2024/5/3)

ゴールデンウィークに映画を見ることにし、何を見るか探した時に新宿武蔵野館でサングラスをして頭の髪がうねっている、何だ、こいつという感じの存在感のある映画監督の写真が目につきジム・ジャームッシュという監督でした。武蔵野館では2021年この監督の特集をやり、好評だったのでその時上映した中から2本を再上映するというもので、それは「コーヒー&シガレッツ」と「パターソン」でした。「コーヒー」のほうは、ジム・ジャームッシュが撮影合間に撮り溜めた、俳優達がコーヒーを飲みタバコもくゆらしながらとりとめもない会話を撮影した11の話を展開します。好きなパターンなのでこちらを見ようと思いましたが、「パターソン」は平凡な夫妻の1週間を描いたというので見た目が平凡でない人が平凡を扱うとうなるのか興味がわき「パターソン」を見ることにしました。結論から言うと最高の映画でした。機会があれば是非見てもらいたいです。

主人公はパターソンに住んでい

特集 映画の思い出

るバターソンという人でバターソンのバス運転手です。毎日同じ時間に起き仕事をしに行きます。映画は毎朝起きるシーンから始まりベッドの中での夫婦の会話から、部屋にはブルドッグが椅子に寝そべっていつても夫婦の会話を聞いています。このブルドッグの表情がすごく良いです。何気ない夫婦の会話、仕事にいつて仲間との会話、仕事が終わる夕食の後、犬の散歩と途中に寄るバーでの会話、週末に留守番していた犬が事件を起こします。よくある犬の悪戯ですがバターソンにとってはやりきれない事が、悪戯が見つかった犬の仕草が最高でした。最後にバターソンに旅行に来た日本人との出会いが、ベンチで会話、ある物をプレゼントされます。それはバターソンがショックから立ち直るキッカケとなりそうです。日本人は別れる時にアハーと言って帰ります。

ーマントラストシネマ有楽町2023/11/9)
日本が真珠湾攻撃する1週間前の上海での日本、フランス、中国のスパイ活動を題材にしている興味をひきました。そして真珠湾攻撃を中国人監督ロウ・イエが取り上げたことも。
日本に対する批判めいた内容もあるのかなと見ましたが、アクション娛樂+恋愛映画でした。白黒フィルムなので当時の雰囲気カラーより出ていたと思います。映画は舞台の稽古場面から始まり、どこまでがその稽古でどこからが本筋にはいつているかが分かりづらく、いつのまにか本筋に入っています。この映画の狙いなのかと思います。同じような場面が中程にも出てくるのでここでも、どこちだと悩みます。
出演は「SAYURI」にも出ていたコン・リーでなかなか雰囲気のある女優でモニカ・ビッテイに雰囲気似ていると思いました。役はユー・ジンという女優であり、昔の恋人がこの映画の始まりのシーンに出てくる舞台の監督でユー・ジンはこの演劇に出演する為に

上海に戻ってきました。但し裏の顔はスパイです。日本軍人のオダギリジョーから日本軍の秘密を聞き出すのが目的です。そして成功し日本軍から命を狙われることになりました。

昔の恋人に舞台の初日には必ず戻ってくるという約束を守るため危険を犯して戻ってきます。訳あって別れてしまったけれど本当に好きだ、という切ない感じが画面にあふれていました。日本軍が彼女を殺すため迫ってきます、こちら日本人なので日本軍を応援するとお思いきや、なんとか助かってくれとユー・ジンに心が移って映画を見ました。

「オッペンハイマー」(TOSHONEMAZおおかたの森 2024/5/2)

IMAXでの鑑賞を勧めています、PREMIERという大型リクライニング席のみで定員56名のスクリーンでゆっくり鑑賞しました。

原爆の父と言われるオッペンハイマーの栄光と挫折を描いていて原爆そのものの映画ではないです。愛国心から活動し開発に成功、国

からしても賞賛しかないと思いますが、人間関係等からスパイ容疑をかけられ、そのやりとりが緊迫をもつて描かれています。映画を見ると自分に正直に生きた人と思えますが、こんなことがあるのかという感じです。3時間の映画ですがあつという間に終わります。アインシュタイン、ハイゼンベルク、ファインマン等歴史に名を残した物理学者が沢山出てきます。出てくる人の相関関係を把握できると良いのですが一回見ただけではわからなかったので後で調べました。

オッペンハイマーはYouTubeで沢山の方が感想を上げています。こんなにいるんな人が書いてるのはあまりないのではと思います。ほとんどの人が一回見ただけでは分からないと言いつつ2回3回と見えています。わからないので語りたくなるのでしょうか、また監督のクリストファー・ノーラン作品が好きで楽しみにしていた方も多いです。

この5作品はいずれも監督も注目される作品でした。

outsiderの映画事情8

門屋 大二

例年の関田さんのお誘いでoutsiderであることを十分に自覚しつつ「映画（映像社会）情報の記憶を辿り「outsiderの映画事情」として」報告することに。生来身についた一夜漬けの習性は如何ともし難く今回も直前までテニス・jogging・坐禅・ピアノ・英会話・囲碁などに熱中しやや多忙に野放図に楽しんでいる日常から締め切り目前のバタバタで内容が発散傾向に終始して脈絡の乱れがあることをご容赦願いつつ……。

「君たちはどう生きるか」…

最近の盛沢山な「映画界情報」に驚きつつも好奇心を頼りに辿って見ると先ず中国事情が浮かぶ。

「スタジオジブリ」通称「ジブリ」は長編アニメーション映画の製作を主力事業としており、次の様な作品が中国で圧倒的な人気を博しているとのこと。「千と千尋の神隠し」・「となりのトトロ」・「天空の城ラピュタ」・「君たちはどう生きるか」・「崖の上のポニョ」・「紅の豚」等々。根強い「スタジオジブ

リ」人気が続く中国で第96回アカデミー賞長編アニメーション賞に輝いた宮崎駿監督による「君たちはどう生きるか」が最近公開され、中国社会への浸透度合いは深く非常に高く評価されている。太平洋戦争末期、母親の死をきっかけに田舎に疎開した真人という少年が廃墟となった塔を発見し、人間の言葉を話す謎の青サギと出会い、彼と共に幻想的な「世界」へと足を踏み入れる物語。この作品の「高い芸術性・物語の面白さ・環境保護・平和を願うメッセージ性」・「急速な経済発展を遂げた中国の人々にとって作品で描かれる田園風景は庶民の目に懐かしく映り激しい現競争社会の中で癒しになったこと」等「宮崎映画熱烈歓迎」の背景に「中国社会の裏面」が見え隠れする。

「ゴジラ-1.0」…

第2次世界大戦の直後にゴジラが大暴れする物語でロングヒット達成中。戦争により先進国から「無」の状況に叩き落された日本。そこへゴジラが現れ日本を「無」から「マイナス」の状況へとさらに落とし込んでいく。ビキニ環礁の核実験で巨大化したゴジラが東京に上陸し破壊の限りを尽くす。

戦後の日本を舞台に敷島浩一という元特攻隊員が中心となりゴジラ討伐のため元海軍の兵士とともに「ワダツミ作戦」を立案しゴジラを深海に沈める計画を進める。

ゴジラの恐怖と戦う姿は真剣で感動を呼ぶ。山崎監督の特撮技術は見応えがあり、アニメにしろ特撮にしろ日本が独自の進化を遂げてきたエンタテインメントは今後世界に向け躍進する道が拓ける可能性を立証しており、ゴジラマイナスワンはその希望を確信させる。今年のアカデミー賞の授賞式に先立って、映画の制作について山崎監督は「アカデミー賞にノミネートされたことは驚きです。もしも誰かが私に夢を見ているのだと言っていたならば私もそう思う」・「小さなセットを持っていてデジタル技術を使つて拡張した」と言及している。彼が限られた予算で多くを成し遂げたことも驚きを呼び評価を高めている。

「オッペンハイマー」…

物理学者オッペンハイマーは原子爆弾の開発・製造を行う「マンハッタン計画」を任される。物理学者が研究を兵器に利用されることで政治的に巻き込まれていく過程と原爆投下後に想像以上の後悔

と良心の呵責に苛まれる人間ドラマが展開される。この映画はひとつはカラー映像・もうひとつはモノクロ映像の2つの映像パートから成り、カラーがオッペンハイマーの視点、モノクロがオッペンハイマーへの復讐の念に燃えるストロースの視点となっている。モノクロパートは戦後を映し原爆の開発が成功し、実際に戦争で投下された後、オッペンハイマーが深く悩み苦しむ姿を映像で訴える。マンハッタン計画の開始当初は、オッペンハイマーは「原爆開発は非常に意義のある研究」と考えて、自らがユダヤ人であることから原爆をナチスや敵国よりも早く開発することが重要だと、強く感じていたことを滲ませる。同時に迷いもあり、この研究が殺戮を引き起こす可能性もよく理解していたため深く思い悩む二重映像は見るものを考えさせる。そして計画の終盤には、原爆が第2次世界大戦を終わらせる手段であると思いついていたが自身の予想を超える悲惨な結果を目の当たりにし、強い罪悪感に苛まれる。オッペンハイマーは戦後水爆をはじめとする「さらなる核兵器開発」を制限するよう訴えるなど、戦中とは大きく異

なる考えを示している。その苦悩の軌跡と、劇中で彼が何度かつぶやく「我は死神なり、世界の破壊者なり」という古代インドの聖典の一節を組み合わせると、本作のメッセージが明瞭となる。戦後、オッペンハイマーは核兵器も取り扱う「原子力委員会」に参加するが、いくつかの理由によりソ連のスパイだと疑われることになる。疑いをはらすための聴聞会が開かれ、狭い部屋で連日にわたって取り調べを受け裁判のように証言を強要される。プロメテウスは、ギリシャ神話に登場する神で神々の意志に反して人間に火を与え、その結果、人類の文明発展に貢献するものの、主神ゼウスによつて厳しい罰を受ける。オッペンハイマーは、人類に火「原爆」を与え、罪悪感や苦悩に縛られその人生が大きく変遷していくこととなる。この物語は、オッペンハイマーとプロメテウスを重ね合わせて表現し「科学者が直面する創造と破壊のジレンマ」や「知識の追求がもたらす恩恵と危険」を見るものに訴える作品となっている。

ちなみに、本作原題は「American

Prometheus: The Triumph and Tragedy of J. Robert Oppenheimer」であり、オッペンハイマーを「アメリカのプロメテウス」と表現している。本作は、世界滅亡の可能性についても感じさせる。劇中に何度も登場する「大気引火」という言葉の message 性が強い。これは原爆の極めて強力なエネルギーにより、地球上のすべての空気が燃えてしまうことを示す。マンハッタン計画の初期に議論され、科学者たちが計算した結果「大気引火が発生する確率は非常に低い」と結論づけられたが、オッペンハイマーは発生の確率は「非常に低い」だけであり、「ゼロではない」ことを把握している。つまり自分たちの計算が間違っている、もしくは人知を超えた最悪の悲劇が起きれば、地球を滅亡させるかもしれないという状況で、実際に原爆実験を敢行したことになる。この悲劇をノーラン監督は「恐ろしい恐怖」と名付けている。「トリニティ実験」の下準備中に、オッペンハイマーとそのチームは、非常に小さな可能性を認知していた。彼らがこの最初の爆弾のボタンを押

して起動させたら、連鎖反応が起きて地球の大気を焼き、地球を破壊するかもしれない。いかに小さくても、その可能性を完全に排除することができない数学的、理論的根拠は存在しない。それでも彼らはボタンを押した。このように「原爆実験は世界を滅亡させる可能性がある」「オッペンハイマーは悩み続けていた」との認識がこの映画を鑑賞するものを圧倒する迫力となっている。オッペンハイマー・アインシュタインら科学者らは紛争の広がり世界を「極めて不安定な状態」にしており「終末時計」として知られるものを、午前0時まで残り90秒のままにしておくことにより人類がどのくらい「自己破壊」に近づいているかを警告している。ウクライナでの戦争からロシアの指導者たちが核兵器を使用すると脅す状況・北朝鮮に起因する核危機の可能性・イスラエルとハマスとの戦い・・・を考え合わせればわずか90秒先に世界は破壊に近づいているとの彼らの警告が真に身に迫る。

「名探偵コナン 100万ドルの五稜星（みちしるべ）」…

北海道函館を舞台に新選組の土方歳三にまつわる名刀の謎を追う物語。コナンは服部平次らと共に剣道大会のため北海道函館を訪れる。そこで彼ら新選組副長・土方歳三にまつわる日本刀を狙う怪盗キッドを目撃。そんな中、函館倉庫街で変死体が見つかる。「月下の奇術師」の異名を持つ怪盗キッドや、キッドと因縁のある「西の高校生探偵」こと服部平次が登場し、函館を舞台に、謎に包まれた日本刀をめぐるミステリーが展開する。函館にある斧江財閥の収蔵庫に、怪盗キッドからの予告状が届く。キッドの狙いは新選組副長・土方歳三にまつわる日本刀だったが、折しも函館で開催される剣道大会のため、服部平次やコナンも同地を訪れていた。平次はキッドの変装を見破り、追い詰めていく。時を同じくして、胸に十文字の切り傷がつけられた遺体が函館倉庫街で発見され、捜査線上には「死の商人」と呼ばれる日系アメリカ人の男の存在が浮上する。映像には、精巧に描写された函館の街並みのなか、ロープウェイの上をスケボ―でダイナミックに滑走するコナ

ン・セスナ機の上で緊迫した表情で向かい合う平次と聖・五稜郭で派手な殺陣を披露する沖田と鬼丸ら、アクションシーンは息を飲む「ハイジ」..

ハイジと祖父ピーターとの出会いが美しく雄大なアルプスの美景・羊の群れ・自然との触れ合いの中で描かれる。両親と死別しデーテ叔母さんに育てられ11歳でアルプスの山での生活でアルム叔父さんと触れ合う。アルムは頑固な老人であるがハイジとの交流で心は癒されていく。盲目のピーターの叔母さんとも親睦を深める。デーテ叔母さんはフランクフルトの金持ちの車椅子に頼る娘クララの遊び相手にハイジを送り込む。そこで意地悪のロッテンマイヤー夫人と出会いハイジの新しい葛藤が始まる。スロバニアで撮影されたアルプスの風景は秀逸。ハイジは山へ帰りクララも山に来る。歩行不可能だったクララがアルプスの自然・クララ・ピーターとの交流を通じて奇跡的に自立。ハイジは再び山を自然を満喫し、クララもフランクフルトへ帰り無事元の生活に復帰する。

「ハイキュー!!」..

古館春一原作の漫画『ハイキュー!!』の劇場版第1弾。バレーボールに青春を懸ける高校生たちを描いた本作の中で、人気のエピソードの「烏野高校VS音駒高校」の因縁対決を描く。翔陽たち烏野高校のメンバーは、音駒との練習試合で力をつけていく。そして、公式戦で一度も当たったことなかった両校の対戦が実現する。長編アニメーション映画「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」の興行収入が100億円突破・観客動員数699万人との報道も。記録。人気漫画原作のバレーボールに情熱を燃やす高校生たちを描く。反目するふたりだったが、バレーボールを通じて技術的・人間的成長を確認しつつ展開する物語。

「デカログ」..

ポーランドの世界的映画監督クシシュトフ・キエシロフスキがTVドラマ用に撮影し1980年代に発表した映像作品。旧約聖書の「十戒」がモチーフとなった全10話の物語は国際的に高い評価を受け、人への根源的な肯定と愛を感じさせる作品群は30年以上を経た現在も映画ファンを中心に根強い人気を誇る。

是枝監督カンヌ審査員に..

第77回カンヌ国際映画祭で最高賞パルムドールを競うコンペティション部門の審査員一人に是枝裕和監督が選ばれた。是枝監督は2018年に「万引き家族」でパルムドールに輝くなどカンヌ映画祭の常連として知られている。

阿部公房 生誕100年..

映画界も敏感に反応している。石井岳龍監督は30年の構想を経て阿部公房による1971初版発行の「箱男」を映画化した。段ボール箱を頭からすっぽりかぶりのぞき窓から世界を見つめる箱男を描き「見る／見られる」の関係性を通して人間と現代社会の有様を照らし出す。ベルリン国際映画祭で喝采を浴びたことも記憶に残っている。

「悪は存在せず」(2020)・「聖なるイチジクの種」(2024)..

ベルリン国際映画祭で最高の「金熊賞」を2020年受賞した「悪は存在せず」のイラン人監督モハマド・ラスロフが反体制派とみなされてテヘランの革命裁判所から禁錮8年とむち打ちの有罪判決を受けた後国外脱出。ラスロフ氏は2024年カンヌ国際映画祭のコンペティション部門に新作「聖

なるイチジクの種」を出品。イランの体制指導部に対し「人々は抑圧的なあなた方と体制を歴史の底に埋没させることを待ち望んでいる」と批判し続けて..。

トランプ氏の伝記映画、カンヌでプレミア上映「アプレントイス」..

フランスで開催中のカンヌ国際映画祭で若き日の دونالد・トランプ氏がニューヨークの不動産王として台頭する姿を描いたドラマ「The Apprentice」(シ・アプレントイス.. 原題)がプレミア上映された。タイトルにはトランプ氏を一躍有名にした米リアリティー番組名を採用し、同氏が振り返きを狙う11月の米大統領選を控える中で公開で注目された。作品の評価は賛否両論。同作品は最高賞「パルムドール」を争うコンペ部門に出品されている。

日仏外交 Dragon Ball 外交..

フランスを訪れている岸田文雄首相は1日夜(日本時間2日未明)、アタル首相と会談し、3月に死去した漫画家、鳥山明さんの代表作「ドラゴンボール」のこけしを贈呈した。フランスは日本に次ぐ世界2位の漫画市場とされ、ドラゴンボール人気は根強い。鳥山さんの死去を巡って同国の政治家が相次

いで弔意を示した経緯もあり、改めて鳥山さんの作品が日仏の橋渡し役の一翼を担っていた現状が浮かんだ。両者が交流を温める上でもドラゴンボールが活用された形といえる。鳥山さんの死去を巡っては、当時フランスメディアも大きく取り上げた。アタル氏もX(旧ツイッター)で、世界中に散らばる7つの玉(ドラゴンボール)を集めると現れて願いをかなえてくれる神龍(シエンロン)のキャラクターを取り上げ「シエンロンの力でも彼を連れ戻すことはできないだろう。彼は間違いなくフランスに漫画と日本文化をもたらした巨匠だった」と投稿していた。2日午後(同2日夜)に会談するマクロン大統領に対しては、ドラゴンボールの食器を渡す予定と報じられている。外交に映画が役。

ジブリに「名誉パルムドール」…カンヌで開催中の第77回カンヌ国際映画祭で日本のアニメーション映画制作会社「スタジオジブリ」に対し長年の映画界への貢献をたたえる「名誉パルムドール」が授与された。世界中のファンがジブリを注目し愛したこと証左。監督や俳優に与えられてきた「名誉パルムドール」が団体に授与されるのは初めてとのこと。会場は総立ちとなり約40年の歩みが祝福された。

MLB水原一平詐欺事件、映画化の噂…

毎朝MLBを観戦している身には聞き捨てならぬ噂。

X(旧ツイッター)…

特に注目度が高い長編部門コンペティションに日本から4本がノミネートされており受賞への期待が高まっている。仏アヌシー国際アニメ映画祭アニメ界で最も権威がある仏アヌシー国際アニメーション映画祭での授賞式が近い。

後記…

「映画は世相を如実に映して」「観点・切り口」のhintを示す重要な発信源と思う。「映画」と言う「共通言語」を通じてそれぞれの立ち位置で「映画」を語る「シネマ気球」。当然のことながら十人十色の観点は優れて印象的。興味津々に執筆諸氏のoutputを楽しませて戴いております。毎度「outsider」なりの映画関心事を羅列しております。ご容赦方。私事ここ数年「映画情報」を収集するアンテナの受信性能も改良が進み、withで報じられる「映画情報」に飛びつく昨今です。寄る年波に感性の劣化

若き日の映画への熱狂

わが菊地浅次郎、私もあなたのようになりたかった

若き日の映画への熱狂

わが菊地浅次郎、私もあなたのようになりたかった

鈴木輝夫



鈴木輝夫・著

東映任侠映画を愛した筆者が、40年にわたり書き綴った、熱情溢るる映画論考！ 団塊の世代として、映画とともに自分を社会を日本をみつめてきた筆者は何を見つけたのか――。

本書でとりあげた映画、人物――『血槍富士』『戦艦大和』『二百三高地』『不毛地帯』『続 網走番外地』『明治侠客伝 三代目襲名』『仁義なき戦い 広島死闘篇』『日本暗殺秘録』『平手造酒』『愛国』『11・25 自決の日 三島由紀夫と若者たち』『駅馬車』『風と共に去りぬ』。鶴田浩二、高倉健、千葉真一、中村錦之助、三原葉子、南利明、志村けん、内田吐夢、加藤泰、若松孝二、三島由紀夫、瀬島龍三。

四六判 220 ページ 定価 1980 円(税込み)

ISBN978-4-902387-40-7



ごまめ書房

〒270-0107 千葉県流山市西深井 339-2
TEL04 (7156) 7121 FAX04 (7156) 7122
Email: t-sekita@mua.biglobe.ne.jp
HP: <https://www.gomame.co.jp/>

は日々感じるところであります、静かに「楽しみ第一・頑張るは禁句」をモットーに鑑賞を続けたい

ものと思います。

(2024・6・20)

『ブラック・レイン』——押し付けられた価値観——

久保嘉之

一

『ブラック・レイン』が克蘭クアップしたとき、監督であるリドリ・スコットは、「日本では二度と撮らない！」と、吐き捨てたという。ことほどさように、日本でのロケは難航を極めたのである。

まず舞台として候補に挙がったのは東京で、成田空港や銀座、それに新宿歌舞伎町などのロケハンがおこなわれたが、あまりに近代化された街並みや建造物ばかりでイメージにそぐわず、しかもカーチェイスや銃撃戦の許可がなかなか下りないために断念して、まだしも好意的であろうと見込まれる、大阪に変更された。府警本部として用いられたのは、建て替え前だった大阪府庁の旧庁舎である。しかし「公的な施設を、民間企業に貸し出すのか」という新聞記事に、府知事の腰が砕けた。承諾を得て予定していたいろんな場所での撮

影日数や時間が、大幅に削られたのである。与えられた時間ではライティングだけで終わってしまうというので、ライト一個で撮影した箇所もあるという。予定が予定で成り立たなくなり、日本での撮影を諦め、アメリカで撮ることを余儀なくされたシーンも多い。当然製作費も大きく膨らむ。

当時日本には撮影をサポートする（フィルム・コミッション）はなく、製作側が役所と直接交渉しなくてはならず、それも街頭撮影ひとつの許可を得るにも詳細な計画書の提出を求められ、且つカメラを向ける方向や設定領域にも制限が加えられたという。現在では考えられない事態で、スタッフは余計な仕事で、駆けずり回らされたのである。大阪府警本部長役の神山繁が語っている。「毎朝台本を渡されるのだが、その度に変更されていた」と。いかに撮影現場が混乱を極めていたか、この一事を以てしても想像に難くない。

後に日本で（フィルム・コミッション）が設立されたのは、この『ブラック・レイン』が契機となっている。

二

ニューヨーク市警の刑事ニック・コンクリン（マイケル・ダグラス）。腕利きではあったが、仕事はハードな上に給料は安かった。賄賂や横領が、大手を振って闊歩する部署でもあった。ニックも離婚した妻への手当てや、私立へ通う子供の授業料の支払いに苦慮し、一度だけ手を染めたことがあった。今日はその審問会の日である。認めれば汚職警官のレッテルを貼られ、職を失ってしまう。何とか隠しおせたニックを、歳の若い相棒であるチャーリー・ビンセント（アンディ・ガルシア）が昼食に誘う。テーブル席を占める顔ぶれに、「マフィアが来る店か。これじゃまた疑われるかもな」憚然たるニッ

ク。

その時、異変が起きた。ひとりの男が入店してくると同時に自動小銃を構え「おとなしくしろ！」と叫んだのである。続いて佐藤浩史（松田優作）が入ってきた。

顔見知りである年配の男に近付くと、佐藤は突如ナイフを擬して、男の上着の内ポケットから木箱を抜き取る。これで原版の片方は手に入った。次いで悪態を吐いた用心棒の胸を突き刺すと、すかさず年配者を抑え込みその咽喉を掻き切る。逃走。ニックが動いた。自動小銃を乱射する殿の男を射殺して、後を追う。停めてあった車に佐藤が転がり込むと、すぐに発進。だがトラックとぶつかり、車を捨てて走り出す。ニックが必死に追う。少し遅れてチャーリー。追い詰めるも、反撃を受ける。銃を叩き落され、浅手ではあったが顔に傷を負う。揉み合うふたり。だが駆け付けたチャーリーの手を借りて、何とか取り押さえることがで

きた。しかし佐藤の身柄は、日本大使館から国務省へ引き渡し、要求があり、市警本部へ本国送還の命が下る。納得がいかないニックだったが、チャーリーと共に佐藤を移送するよう申し渡される。

到着した大阪空港に、制服警官を従えて身柄の受取りに現れた内田裕也とガッツ石松のふたりの刑事。何と彼ら全員が贖者だったのである。まんまと優作を引き渡してしまった。ニックとチャーリーは愕然とする。だが意地でもこのまま帰ることはできない。帰国させると命じる大橋警視（神山繁）に、捜査に参加させてくれるよう頼み込む。洪々の承諾を得る。但し日本では只の民間人だからと、銃は没収。「英語が話せて、土地勘のある警官を付けてくれ」ニックの依頼に、警視は目付け役を兼ねて、松本正博警部補（高倉健）を同行させることにする。

——警察署内が、俄然慌たしくなった。佐藤のアジトのタレ込みがあったのだ。松本の制止を振り切り、ニックとチャーリーは強引に同行。佐藤の姿はなかったが、一味の男たちを逮捕。中にガッツ石松がいた。押収された百ドル札のうち二三枚をくすねたニックは

チャーリーを伴い、その内の一枚に火を付ける。思った通り贖札だった。だがくすねる現場を松本が目撃しており、報告を受けた大橋警視に呼び付けられる。憤然たるニックは、ふたりの前で火を付けてみせ「燃え尽きる前の炎と灰の色を見る。印刷のプレスが弱いからこうなる」贖札であることを証明する。「なぜ報告しない？」手順を踏んでいては、時間ばかり食ってしまうのではないか。それに知らせようとした松本は、聴く耳すら持たなかった。

ニックとチャーリーは、詫びを兼ねたものか、松本の案内で飲みに出た。だがここでも「自分のことよりチームのことを考える」を銘とする、謹厳実直で職務・命令に忠実な松本と、日本の常識に疎く「新しい思い付きを持つ人間は潰される」とばかりに強引で独りよがりな捜査法を取るニックは、真つ向から対立する。チャーリーが場を取り成す。

帰路、松本と袂を分かったふたりは、待ち受けていた佐藤の一味に襲われる。……そもそも殺害現場にニックとチャーリーが居合わせたのは、佐藤にとって大きな誤算であった。それでも大阪空港で

尻尾を巻いて帰ればそれまでのことだったのだが、居残って執拗に追い始めた。佐藤にしてみれば、計画遂行のため、排除すべき障害となつたのである。

ニックの制止にも拘らず、挑発する囃の敵を追つたチャーリーを、数台のオートバイが取り囲み、次々と長七首^{ドロブ}で斬りかかる。遅れて着いたニックの眼の前で、手傷を負つたチャーリーの首を刎ねたのは、佐藤だった。——このチャーリーが囃を追うシーンは阪急梅田駅ターミナルビル一階のコンコースで撮影されたが、続く殺害される現場は地下鉄御堂筋線で予定されていたものの許可が下りず、アメリカで撮影されている。

チャーリーを殺され、ニックは孤立無援となつてしまった。松本は、素直で明るい性格だったチャーリーを思つて、臍^{はら}を噛む。ニックの許を訪れ、「日本には形見分けの風習がある。故人の遺品の中から、ひとつだけ貰うんだ」遺品を収めた箱を差し出す。ニックは、拳銃があるのに気付く。「何でもいいのか？」「何でもいい」松本の官僚意識に、変化が表れ始めていた。ふたりが再度訪れた、佐藤の事務所。スパンコールを見つける。

——このシーンは、『ブレードランナー』で、レブリカントであるリオンの部屋で見つけた人工の蛇の鱗、そこから主人公がスネーク・ショアのダンサーであるゾーラに辿り着くエピソードを喚起させて、興味深い。

スパンコールの衣装を着ていた、佐藤の元親分であつた菅井国雄（若山富三郎）がオーナーであるクラブ「ミヤコ」のホステス（小野みゆき）を見張ることにする。彼女は佐藤の情婦であつた。市場（大阪中央卸売市場でロケ）は朝が早い。屋台でうどんを啜りながら張り込みを続ける。松本が躊躇いがちに切り出す。「君の上司に聴いたのが……」

ニックはすぐに横領のことだと察した。「君も受け取つたのか？」「受け取つた。……後悔している」それを聴いた松本は、「チャーリーは良い警官だった。盗みは彼を汚すことだ。君自身を汚し、俺を汚す」ニックは言葉の意味を噛みしめるように沈思し、しつかりと松本の眼を見つめて、ひと言「ありがとう」

アパートから出て来た女は銀行へ向向き、貸金庫から原版はそのままに見本の贖札のみを取り出す

と、玄関口でタクシーを停める。降車した男の客と入れ違いに、乗り込む。すぐに追おうとするが、ニックは降りた客が空港の贓刑事(内田裕也)であることに気付く。そちらを追う。(このシーンは神戸で撮影された。高倉健は日本の大スターである。周りの人に知られるとすぐに人だかりができ、収拾がつかなくなってしまう。警察は人員整理の人手を出してはくれないので、気付かれるとすぐに高倉を自動車に乗せ、その場を離れたそうである)

——佐藤は野心家であった。菅井の乾分では飽き足らず、反旗を翻し独立をはかったのである。更にその菅井がアメリカで製造するため、幹部に持たせた、贓札の二枚の原版を奪い取って資金とし、組織を大きくしようと目論んだのである。内田が赴いたのは佐藤と菅井の交渉場所であった。製鉄所である。二階の事務所にふたりはいた。それぞれ取り巻きの乾分たちも一緒だ。人数が多すぎる。応援を要請するため、松本は電話を求めて走り去る。内田に渡された贓札の見本を、佐藤は菅井に差し出した。間違いないと確信したのか、「原版はどこや？」佐藤は薄く

笑いながら「渡した途端ズドンでっしやる」持参する訳がなかった。「望みは何や？」交換条件を云えという菅井に、佐藤は殊勝げに他の組長たちと同等の立場を得たいこと、菅井の勢力が及んでない土地に新しい縄張を築きたいなどと述べるが、可能ならば菅井の持つもう一枚の原版を奪い取り、無理そうなら自分が確実に一枚持つていくことを、知らしめておくだけでよかったのである。当然、交渉は物別れに終わる。佐藤と手下の内田、國村隼の三人は、工場を出て行こうとしていた。松本はまだ戻らない。待てない。ニックは拳銃を構え、停止を命じる。三人はすぐに散らばり、銃撃戦となった。國村が撃たれる。残るふたりは停めてあったバイクに跨り逃走。追いかけて発砲するニック。内田のバイクのタンクに当り、爆発炎上。尚も佐藤を走って追う。何台ものパトカーがようやく到着。拳銃片手に走る男を、ほっておくわけがなかった。すぐに取り押さえられ、銃は没収。佐藤は逃げ果せた。万事休す。(撮影場所は、「新日本製鉄・堺製鉄所」であるが、やはりここでも銃撃・爆発シーンの許可が下りず、その部分はカリフォルニア

州フオンタナで撮影されている)

ニックは、即時帰国の処分。奇しくもチャリーリーの亡骸の送還も同じ便であった。コンベアで運び込まれる柩を見た時、このままで帰れない、その思いが強く突き上げてきた。荷物の搬入口から、脱走する。尋ねた先は松本の自宅である。手伝って欲しい、その懇願を、「君みたいにはなれない。なりたいと思ったが、今は停職中、もはや警部補ですらない。無理だ」と断られてしまう。「思い切って飛び出すんだよ」懸命の説得も、松本の翻意を促すことは適わなかった。——残るは最後の手段だけだった。ニックは、クラブ「ミヤコ」のホステスであるジョイス(ケイト・キャプショー)に頼み込み、菅井とゴルフ練習場で会うことができた。自宅へと伴われる。その様子を車の中から、窺っている者がいた。松本である。

どうやら彼も、心の中では忸怩たる思いを抱き続けていたようだ。ニック渾身の、賭けであった。「菅井さん、俺はあんたの問題を解決できる。俺があいつを始末する……この国には関係のない外人が、友達のを討つのだ」

菅井の表情が変わる。どうやら

「この国には関係のない外人」という言葉が怒りに火を付けたようだ。唐突とも思える剣幕で、ニックに向かい、「奴(佐藤)は、アメリカ人と同じさ。信じるものはたつたひとつ、カネだ。……十歳の時B29がやってきた。俺の家族は三日間防空壕で暮らした。出てきたら街は消えていた。燃える炎は雨を呼んだ。お前らは黒い雨を降らせ、お前らの価値観を押し付けた。我々は自分を見失い、佐藤のような奴らが、大勢生まれた」

空襲で焼かれた街の至る所から舞い上がる紅蓮の炎と朦々たる黒煙は雲を呼び、その雲が叢雲と化して降らせる黒い雨を「ブラック・レイン」といい、「(空襲)の隠喩ともなっている。本編の舞台となった大阪は、昭和十九年から翌年の終戦間際まで、実に六十回近くの空襲に遭っている。中でもB29が百機以上で飛来した「大空襲」は八回に及び、その内の三回は何と四百機以上の大編隊で押し寄せ、焼夷弾をこれでもかとばかりに撒き散らしているのだ。死者は延べ一万五千人にも及ぶ。「出てきたら街は消えていた」と云う菅井の言葉は、決して比喩でも誇張でもなかったのである。

因みに、この映画が当初の予定通り東京を舞台として撮影されていたとしても、「東京大空襲」という悲惨極まる「ブラック・レイン」があり、物語に変化はなかった筈である。斯様に、広島と長崎に投下された原爆を締め括りとして、日本全国至るところが戦火に晒され黒い雨が降り注いだのだから、〈佐藤のような奴ら〉はこと大阪に限らず、各地で生み出されたのである。

無条件降伏。この言葉の持つ意味は大きい。その後乗り込んできた進駐軍は、日本の文化や伝統のみならず日本人の美德とする質素や儉約、果ては義理や人情までも否定し蹂躪した。そして徹底した個人主義、更には持てる者が勝者だという、自分たちの価値観を押し付けたのである。敗戦国民である日本人は、唯々諾々とその命に従わざるを得なかった。結果、終戦から十年後の一九五五年、持てる者の頂点を目指すべく、高度経済成長期が始まる。戦後世代である佐藤は、そんな風潮の中で育った。質素儉約？ 貧しさの何処に意味がある。義理人情？ 強い者がのし上がるのは当たり前だろう。菅井に盃を貰い親子の関係を持つ

たのも、彼にとつては、方便にしか過ぎなかったのである。

菅井は、任侠道に背を向けた佐藤のようなネオ・ヤクザが抬頭してきたのは、お前らアメリカ人の所為だと、ニツクを詰ったのである。しかし日本の常識に理解が及ばない独善的なニツクにとつて、それは意味不明な戯言にしか聞こえなかったのではあるまいか。

三

『ブラック・レイン』は基本的に、横領に加担するほどに、バイクレースで賭け金を手に入れるため無謀な運転をも意に介さないほどに、荒んだ環境と精神状態にあるニツクが、日本へ来て松本の警察官としての在り様に接し、次第に刑事としての本分ひいては人としての〈誇り〉を取り戻す、物語である。だが同時に、徹底した個人主義者であるニツクと、つまり戦勝国の価値観を押し付けた側の人間と、松本や佐藤のように押し付けられた側の人間、双方の価値観の相違を描き出すことで、両国の文化的対立を見つめ直そうとしたようでもある。だが押し付けられた側の松本と佐藤も、これまた対極にあ

った。松本の価値観は、ニツクの人間性を回復させた。ならば佐藤はどうなのか。空襲による焦土の中で生まれついた彼は、食うや食わずの少年期を過ごし、碌な教育も受けられなかったに違いない。しかも彼を取り巻く価値観は、持たざる者は〈敗者〉であり、競争社会と化した世相にあつて、誰ひとり慈悲の手を差し伸べてくれる者などいなかった。だからこそ持てる者である〈勝者〉を目指さざるを得なかった。手に入れるためには、手段を選ばなくなった。人を殺すことさえ辞さなくなったのである。……スコット監督はニツクや松本と対比させながら、押し付けられた価値観が生み出した〈負のステレオタイプ〉である佐藤をもっと掘り下げたかったのではあるまいか。だからこそ佐藤役のオーディションに、執拗に拘ったのでは？

監督自身はこの映画を、「自分のビジョンを作品に反映できたから、気に入っている」と語っているが、これは余所行きの発言だろう。日本の役所や警察の非協力的な対応で、ロケ地や撮影時間など、変更に次ぐ変更を余儀なくされ、ために予算は大幅に膨れ上がり、頭の中に描いたコンテ通りに撮れなかった憾みは、残っている筈だからだ。〈文化の衝突〉どころか、佐藤浩史さえ今ひとつ掘り下げることができなかった、悔しい思い……。――豪農と思しき広大な一軒家である。菅井ほか四名の親分が集まり、佐藤を待っている。ニツクは散弾銃を手にして、植え込みの陰から様子を窺っていた。気付いた見張りが足音を消して近寄る。あわやの瞬間、昏倒したのは見張りであつた。息を切らした松本が、ニツクを見つめて「どうだ飛び出したぜ」これ以上はない助っ人であつた。

佐藤が到着する。親分衆に一礼すると、席に就いて神妙に原版を差し出した。受け取った菅井は自分の原版の上に重ねて置き、親子の盃をかわす前に、お前が今までしてきたことへのケジメを付けんかい」と申し渡した。佐藤が気色ばむと、だったら盃は無しやと怒鳴りつける。

「判りました」佐藤はハンカチで左手小指の根元をきつく縛り、顔色ひとつ変えずに匕首で小指の先を、切り落とした。見届けた菅井は佐藤を招きよせ、盃を渡そうとする。その左手を掴むと同時にテ

ーブルに押し付けた佐藤は、内懐の匕首を抜く手も早く、手の甲を縫いとめたのである。菅井のあげた叫び声が、銃撃戦開始の合図となった。建物内に侵入し様子を窺っていたニックは銃を向けようとしたチンピラを、散弾銃で吹き飛ばす。二枚の原版を手に入れた佐藤は、雨戸を蹴破って表へ飛び出した。すぐさま追うニック。銃声を聞きつけ何事が起こったかと建物に近づく安岡力也ら菅井の手下

「碁盤斬り」

原作は古典落語

楽しめる。見終えて、落語が講談を聞いたような感触だと思ったら、古典落語の演目「柳田格之進」が元になっているとのことだ。

基打ちの浪人・柳田格之進（草薙剛）。篆刻の仕事をしながらつましく長屋で娘・お絹（清原果耶）と二人暮らし。清廉潔白なのはよいのだが、小さな失敗も見過ごせない性格。基好きの因業な商人・萬屋源兵衛（國村隼）は、危急を救ってもらうなどして、柳田の生き方に感化される。柳田は元彦根藩士、藩の備品などを扱っていたが、あらぬ嫌疑をかけられ藩を追

を、倒した見張りから奪った自動小銃で、松本が射殺する。あとは銃弾が飛び交い、至る所で爆発が起きる、混戦である。

ニックは佐藤しか眼中になかった。ひたすら追いかける。佐藤はバイクに跨って逃走。ニックも手下のバイクで追尾。泥濘（ぬれ）んだ葡萄畑の細道を、疾走する。遂に先へ出たニックは、佐藤を引きつけておいて、バイクを転倒させる。避け切れず乗り上げて、横倒しとな

い出されたのだ。が、その嫌疑も晴れる。後輩の藩士が江戸へやってきて、「嫌疑をかけたのは柴田兵庫（斎藤工）の仕業であり、柴田は藩の大事な掛け軸を盗んで出奔殿は柳田に藩に戻ってきてほしいと言われている」と告げる。柴田は柳田の囲碁敵だった。柳田は藩には戻らないときっぱり。

ある日、萬屋源兵衛の自宅で柳田が碁を教えているとき、源兵衛が厠に行っている間に50両がなくなる。嫌疑が柳田に。手代の弥吉（中川大志）は柳田が盗むはずがないと思いつながら番頭に言われて浪人に金を知らないがらと尋ねる。あらぬ嫌疑と思いつながら柳田は廓の女将（小泉今日子）から、年末までに返さなければ娘お絹を女郎にすると条件で金を借りる。

る佐藤のバイク。両者すかさず起き上がり、血塗れ泥まみれとなりながらの壮絶な殴り合いへと発展する。雌雄を決すべき刻がきたのである。

——だがスコット監督が、ラストのこの闘いで本当に描きたかったのは、弟のように可愛がっていた相棒を殺された刑事の燃え上がる復讐心と、今一歩で手が届いた〈持てる者〉への野望を潰されたネオ・ヤクザの渦巻く憎悪と、その

双方のぶつかり合いを介して浮き上がってくる、価値観を押し付けた側の非常識な傲慢さと、押し付けられた側の矮小極まる卑屈さとの、せめぎ合いだったのではないだろうか。

（2023年8月）

×

×

×

手代弥吉とお絹は思い思われの仲だった。柳田は50両を弥吉に渡し、もし金が出てきたら「おぬしと主人の首をもらう」と言い付ける。柳田を失脚させ、柴田から凌辱され入水した妻の仇をとるために、柳田は、後輩の藩士とともに柴田を探す旅に出る。柳田は江戸で賭け碁の場に出るとの情報を得て、二人は江戸へ戻る。賭け碁の場で、柴田をみつけ、柳田は柴田と碁で勝負をする。金のない柳田は自分の首を賭ける。柴田も同じ。腕は柴田が一枚上手。しかし、形勢が不利とわかると柴田は柳田に斬りかかる。すんでのところかわすが、柳田は賭け碁場の入り口に刀を預けてしまっていた。賭け碁場の用心棒達も刀を執る。斬り合い。場の親分（市村正親）が柳田に刀

50両の紛失は源兵衛のうっかりミスだった。金がみつかり、娘は廓勤めをせず済む。柳田は手代弥吉と主人源兵衛の首をもらい受けに源兵衛宅へ。二人とも首を出せ。柳田は上段に振りかぶって刀を下す——。監督〓白石和彌。脚本〓加藤正人。

（T・S）

田舎の映画生活6

スターと日本食

岩館 範子

最近、でもないようだけど海外の人たちは日本の事を気にいつてくれている。それは料理だったり、文化だったり、風景だったり、いろいろだ。

トム・クルーズの場合

若かりし頃、アジア旅行をした。まず韓国へ。彼は韓国は田舎で、料理は辛いものしかないと思っていた。釜山は若者の町でびっくり居酒屋に入りカニ料理カンジャンケジャン（生のカニ）を、「おいしい、かなりおいしいよ。」と食べた。アメリカにはなく、口に合ったのだ。一緒に行った友人は「本当に

やばいんだ。韓国の居酒屋では食中毒になるから食べない方がいい。」と言っていたのに。案の定、次の日に腹痛とひどい吐気に襲われた。病院へ行くと食中毒と診断された。友人には、自分がすめてつらい目に合わせたのであやまった。今でも後悔しているそう。

カンジャンケジャンは火を通さずタレに漬け込んだもの。寄生虫や食中毒のリスクが高く、地元の人はずすんで食べない。「自分たちが食べないものを食べさせるのか。」と閉口した。この一件で居酒屋が苦手になったということだ。

次は日本へ。北海道へ。さすがに、居酒屋は見かけていたけど入らなかった。同行の日本スタッフに入ろうと言われたけど断わった。韓国での事を話して日本はそんなことない聞き、入ることにした。日本はきれいにしていなくて営業許可がおりない。消毒して、手袋して食中毒をださないようにしている。気を使っているのがわかったからだ。きゅうりの浅漬け、卵焼き、からあげ、焼き鳥などを食べ、それもおいしくてお腹こわすこともなく気に入った。

その後の『ラストサムライ』では、エキストラを全員日本人にす

べきと言い、その通りになり、成功したというはなし。

ブルース・ウィリスの場合

失語症のため引退するというニュースが2022年にあった。1

年後「前頭側頭型認知症」と診断された。発症後余命は6年から9年と言われている。ウィリスは2年程度と言われている。今は、ほとんど話す事もできない。調子の良い日も悪い日もある。家族でもう一度大好きな日本へ行こうという事になり実現した。京都に向かった。天ぷらや抹茶が気に入った。いつも訪れていたレストランで、大好きな抹茶を味わった。昔を思い出したかのように満足げな笑顔を浮かべていた。食事を済ませ、街を散策しているとウィリスはふらついてしまい倒れそうになった。表情は一気に不安そうになった。その様子をみていた着物姿の日本人女性が「大丈夫ですか？ 近くに休める所がありますよ。」と声をかけてくれた。日本人のやさしさに感謝の気持ちでいっぱいだったホテルに戻り、ウィリスが口を開いた。ずっと話すことができなかったのに。「あのさ……迷惑、かけて、ごめん。」家族は久しぶりに聞

く声と意外な言葉に涙を浮かべた。日本に来て奇跡が起きたというエピソード。

エル・ファニングの場合

「天国は日本にあったのね。」彼女は、長年アトピーに苦しんでいた。ドイツ系とアイルランド系の血をひいた金髪と白い肌、身長175センチ、ブランドモデルもしている。16歳の時、『マレフィセント』でオーロラ役をしてプロモーションで初来日。アトピーは疲れによる免疫低下や過敏、乾燥肌、皮膚のバリア機能低下など遺伝的体質的要素が大きい。疲れやストレスで悪化する。かゆくてかいてオートミールを入れたお風呂に入っていた。オート麦は肌を落ちつかせてくれると思っていたから。成分は保湿効果を長もちさせていたのだ。来日して温泉に入ることになった。ゆっくりお湯につかり、疲れた身体と心をいやしたかった。アトピーが悪化しないように。リラックス効果もある。天然温泉だから臭いがする。「日本人っておかしな趣味をしている。こんな臭いを好むのかしら！ 不思議。」と思ったそう。体験すると「ぬるぬるしていた、びっくりしちやった！」

という感想で泥パックに似ている思った。温度が高くてびっくり。外は冷たい空気なので不思議とのぼせなかったという。大量の入浴剤を買って帰ったのではないかな。

ゲイリー・オールドマンの場合

大の美食家として知られている。焼き鳥屋さんでの出来事。「室内で炭を焼いても大丈夫なのか？」と思った。煙がもくもく立ちこめる

店内をみて思わず換気扇の場所を探した。次は焼き鳥のビジュアルに衝撃を受けた。「こんなに小さなチキンを食べるのか？だってそうだろう？僕たちがいつも食べるチキンは形が違うし、鶏の心臓や肝臓まで調理されているんだ。最初は信じられなかったね。」と思ったけれど、一口食べた瞬間、おしやべりのピッチが落ちた。「こんな風に調理されたチキンは今まで食べたことがなかった。とにかくなんともジューシーなんだ。感動した。」と言っていた。シェフが生前のチキンに向かって、「ずば抜けたジューシーさを出してくれよ。」と言いつつ聞かせ、チキンもシェフへの尊敬を込めて全身全霊でその指示に従ったとしか僕には思えない。」と笑いをとっていた。「焼き鳥職人は、凄

く集中して料理を作っているんだ。これほど丁寧にチキンを焼いてる人を見たのは初めての事だった。

焼きながら1つ1つの串に注意深く調味料をまぶしている。なかなかクールなショーだったよ。」と言っている。特に砂肝とぼんじりが好きなのとか。この時、動物のあらゆる部分を食べるのは正しい食べ方だって学んだ。

1年後、韓国に行ったことがなかったの言ってみた。焼き鳥に期待して日本とおなじようなものと思ったらまっ赤なソースがたっぷりかかったものがでてきた。思ってたのと違うぞと思って「日本の焼き鳥とは違うのですか？」と聞いたら、「ノー！ヤキトリ！ノージャパン！」とすごい剣幕で怒られた。タツコチという韓国料理。甘辛ソースがたっぷりかかっている。反日教育で育った人たちには怒られるよ。ちゃんと調べてから行くべきだったという彼の口には合わなかった。そして1泊して日本へ。「今となっては、チキンがだちょうほどの大きさに育ってくれない事が残念でならないよ。」とジョークを言っていた。今度は店主とコミュニケーションをとり、江戸時代からあった焼き鳥の起源などにつ

いて学んだという事だ。

トム・フェルトンの場合

「ハリー・ポッター」でマルフォイ役の俳優。悪役だったため、そういうイメージがついてしまい、その後も悪役ばかりで、世間から悪者扱いされるようになった。誹謗中傷や脅迫が相次いでいた。ネットや街中で理不尽に暴言を吐かれてた。そんなのおかしい。精神的ストレスから施設に入れられるほど追い詰められていた。そんな時、PRで来日。日本人だけは他の国々とは違った。(誹謗中傷の70%が中国と韓国だったため、日本は同じアジアなのでおびえていた。)日本だけが彼を受け入れ熱烈に歓迎した。その歓迎ぶりは日本に恋をしたと言わせるほど。その後自分に自信を持つことができ、アルコール依存症からも回復した。あまりの待遇の違いに日本に感謝し、プライベートでも何度も日本に来るようになった。日本に救われたこともあり、東日本大震災や熊本地震など災害の度に日本に売り上げを「すべて寄付」。食料などの支援を積極的に行なっている。

ハル・ペリーの場合

長い間、糖尿病と闘い続けてきた。治療の一環で日本を訪れた。遭遇した特定の料理に心奪われた。そして日本料理のコストパフォーマンスに大いに驚いた。彼女はボンドガールで成功。華やかな生活になったが、成功がもたらす悩みもあった。食生活だ。豪華で見た目重視。健康的にはいいと言えない。日本に来て予期せぬ歓迎と出会いに心動かされることになる。長年差別に苦しんできた彼女にとって、誰もじろじろ見ることなく、自然体で接してくれる日本人の態度は新鮮で心地よいものだった。20年前、まだ侍が闊歩する国を想像していた。そんな訳ないでしょ。生の魚を食べる!?なんて風がわりな習慣だと思っていたが、想像していたような奇異な料理は一切出されなかった。魚と野菜をふんだんに使った健康的なものだった。お吸いものが印象的だったという。ただのお湯みたいだけどころな塩水とは違う複雑な風味がしたから。これが日本食との出会い。日本食は糖尿病には魅力的な料理ではないかな。

マッツ・ミケルセンの場合

この食べものを見て「ありえな

ごまめ書房の映画の本

侏儒の映画館

久保嘉之・著。人斬り五郎のジレンマ―我が愛しの渡哲也―、映画化された江戸川乱歩の作品、バットマン論―あるスーパーヒーローのプロフィール―、リドリー・スコットの映画、など。600ページ。
「本書は、厳密には映画の評論集ではありません。私が観て感銘を受けた映画、とても面白かった映画、興味深いと思えた映画などを綴った、映画案内です」（あとがきより）。
2200 円＋税

昭和映画屋渡世

坊っちゃんプロデューサー奮闘記

斎藤次男・著。『切腹』『男はつらいよ』製作の熱血漢が生み出した、歴史に埋もれた大衆娯楽映画の数々――。現場に飛び散る汗、涙！ 1960年代の映画屋たちの熱気が甦る。映画評論家、書評等絶賛！
定価 2200 円＋税

おしゃべり映画館

N雄とN子の21世紀マイベストシネマ
門馬徳行、岩館範子・共著。映画対談集。
147 本をシネマフリークが語りつくす。
定価 2000 円＋税

映画館をはしごして

小泉 敦・著。暗闇の空間での筆者と映画作家の「対決」！ 観たものを言葉でとことん読み解く。
定価 1900 円＋税

人生は映画とともに

今市文明・著。青春時代の映画を語り、ヨーロッパのロケ地を旅し、スターを語る。
定価 1900 円＋税

観る・書く・撮る

シネマフリークここにあり

門馬徳行・著。フツーのおやじのヘンに熱っぽい映画評論プラス自作シナリオ集。
定価 2800 円＋税

ばってん映画論

久保嘉之・著。ジェームズ・ボンドと俺おれが初めて会ったとは、忘れもせんクリクリ坊主の中学2年の秋やったばいー。注目の娯楽映画評論集！
定価 2000 円＋税

●自費出版のご用命も承っております。安く、丁寧に仕上げます。お気軽にご相談ください。

ごまめ書房
〒270-0107
千葉県流山市西深井 339-2
電話 04-7156-7121
FAX 04-7156-7122
gomame.co.jp



カット・セキタタカマサ

い。」と口にするほど受け入れられないものだったそう。それはすき焼き。海外は生卵を食べる習慣がないから食べた事がない。火を通して肉を生卵につける意味がわからなかった。「仕方ない、食中毒になったら文句でも言おう。」と考

えていた。日本の卵は新鮮なので生でも食べられるのだ。すき焼きは席に運ばれてから作られる。「日本食はどうして客を目の前にして待たせることなんてするんだ。」と苛立った。10分後、実食。「なんだこの食べ物。明日も明後日も食べたいし、何ならデンマークに店を開きたいくらいだ。これは僕の日本で一番のお気に入りになったよ。」と言いつつ虜になったという。日本の徹底した衛生管理された卵だからかな。来日するたび、何度か食べに行ってるよう。「すき焼きを食べずに日本から帰国できない」と考えている。

レイ・ガガの場合

2017年、原因不明の病で活動休止。疲れ果てた時、マネージ

ヤーに日本に行ってみないかと言われ来日。必ずと言っていいほど寿司を食べる。マネージャーは別のものがよいと考え宿の人に聞くと、「しゃぶしゃぶはいかがでしょう。」と言われた。知ってはいしたが、「ただお肉をお湯にくぐらせただけの料理の何がいいの？」と思っていたから、抵抗感があった。あと他の人と同じ鍋にはしを入れるのがイヤで、出汁の香りにうつつする回りの日本人が、おいしいって言うてるのが不思議だった。しゃぶしゃぶした肉の色が全くかわってないから味がついてるようには思えなかった。が、食べたらいいた口がふさがらなくなりました。「こんなにおいしい日本食に出会ったのは初めてよ。ヘルシーさ、やさしい味わいがいい。」

の雑炊を食べ再び開いた口がふさがらなくなりました。どうやったら作れるのか店員に質問したらしい。同じのを家で作れるかは疑問…。

日本料理なんて数限りなく、地方によってもいろいろ違う。日本中に出かけて楽しんでくれば良いと思う。俳優たちはそんなに行てられないかな。コンビニも人気がよく、接客も良いという事だ。おにぎりも人気がある。

×

×

×

今年上半年期の注目作

「コンクリート・ユートピア」(オム・テファ)

天災(地面が津波のように街を襲う。地殻隆起)によって一棟だけ残されたアパートの人たち(若い夫婦ら)がいかにか生き延びるかアパートのリーダー(イ・ビョンホン)が独裁者的に振る舞うようになる。普通の人たちも変容していく…。

「哀れなるものたち」(ヨルゴス・ランティモス)

ひとつの再生の物語だ。ファンタジー。顔中傷だらけの外科医(ウィレム・デフォー)が、自殺した女(エマ・ストーン)の脳を胎児の脳と入れ替えて生まれ変わらせる。赤ん坊のような知能の女がすけこまし(マーク・ラファロ)とフランスやスペインを旅するなかで成長していく…。

「身代わり忠臣蔵」(河合勇人)

面白い。笑える。ラストのテーマ曲(海田庄吾)がよかった。トップが駄目だと部下が苦勞するとのメッセージ。脚本原作者の土橋章宏。

「瞳をとじて」(ビクトル・エリセ)

映画撮影中に失踪した俳優(ホセ・コロナド)を30年後、その映画の監督が探し出す。俳優は記憶喪失に陥っている。主演映画を見せて記憶を呼び戻そうとする。3時間。

「ボーはおそれている」(アリ・アスター)

母親が死んだ(シャンデリアが頭の上に落ちて顔が潰れてしまった)というので、男(ホアキン・フェニックス)は葬儀に出ようとするが、寝過ごし飛行機に乗れず何日も道草を食って葬儀の終わった実家へ。男は精神を病んでいた。母親の愛情過剰、父親の死が原因か。幻想か精神錯乱か。3時間。

「夜明けのすべて」(三宅唱)

月経近くなると情緒不安定になる女、パニック障害の男の物語。上白石萌音、松村北斗。みんなにかしら心の病を抱えている(悩み事がある。松村の元職場の先輩は渋川清彦は奥さんを亡くし、悩みを抱える人同士が集う会に出ている。松村が勤める会社の社長は弟を亡くして遺影に酒を捧げている。瀬尾まいこ原作。松村が勤める会社は、こじんまりした学習教材の販売会社。のんびりしている、いい会社。会社の目標が「何とか潰れないようにすること」だ。「マダム・ウェブ」(S・J・クラークソン)

ヒロインは母親の胎内にいるとき、ペルインの密林に棲息する蜘蛛に刺されて予知能力を授けられる。母親は仲間の研究者(蜘蛛の力を自分のために利用しようとする)に撃たれてしまう。母親は、現地の蜘蛛人間(蜘蛛の力で蜘蛛のような動きができる)に救われるが

絶命。ヒロインは30年後救命士として生きている。予知能力に気づく…。

「コヴェナント 約束の救出」(ガイ・リッチー)

アフガン戦争で現地民の通訳(息子がタリバンに殺され米軍に協力)に命を救われた軍曹が、タリバンから逃げている通訳を救出に行く。面白い。

「ドッグマン」(リュック・ベッソン)

犬小屋で育てられた人間。DV親父、兄貴による虐待。いい話になる予感があったのだが、バイオレンスになってしまった(それを期待して見に行つたのだが)。主人公が犯罪者になってしまったのはやむを得ないのか。犬を使って金持ちから宝石を盗むあたりから、話が犯罪の匂いがするようになる。犬を操る人間のドラマ(北欧の映画)を思い出した。

「青春ジャック 止められるか、俺たちを2」(井上淳一)

若松孝二監督(井浦新)ら映画好きの面々の群像劇。面白い。井浦新の若松を模写しただらう演技が秀逸。監督は名古屋にミニシアター「シネマスコレ」をつくる。

支配人には元芸芸にいた木全(東出昌大)を指名。映画館には井上、監督志望の女性らが集う。井上は若松監督に弟子志願。大学入学後、若松プロで現場を経験し、映画を1本作らせてもらう…。

「悪は存在しない」(濱口竜介)

山里に暮らす父と娘。ペンショ

ン建設問題が持ち上がる。業者はコロナ資金を得ようとする芸能プロダクション。排水などで自然の湧き水が汚染される恐れがある…。

「無名」(チェン・アル)

日本軍が中国に侵攻している時代の話。日本軍人に取り入る中国人たち。彼らのなかに共産党のスパイがいた…。時制の入れ替え(話が前後して展開)があり、最後に至つて話がつながる。

「ミッシング」(吉田恵輔)

若い夫婦(石原さとみ、青木崇高)の小さい娘が行方不明になる。テレビ局の記者の力を借りながら娘を探す。夫婦の奮闘、葛藤、記者の人間性と仕事との葛藤が描かれる。SNSの無責任な書き込みが夫婦、ヒロインの弟らを苦しめる。記者役の中村倫行の真面目な姿が救い。

「マッド・マックス…フュリオサ」(ジョージ・ミラー)

アニヤ・テイラー・ジョイ主演。額を黒く塗ったメーキャップが面白い。目力が強調される。彼女の代表作になる。子役、その母親役も表情がいい。石油タンク車を襲うバイク軍団の延々と続くアクションシーンがみどころ。「駅馬車」のような面白さ。荒廃した未来。対立する悪の組織が支配する世界に放り込まれたヒロインが殺された母親の復讐に挑む。シリーズでは、「マッドマックス」以来の面白さ。

(流 漂介)

筆者の近況

森田洋一〓最近、近場の劇場へいくことが多いです。DVD鑑賞や都内の劇場に足を運ぶことが少なくなりました。見たいと思った作品は、映画館にいつて鑑賞する、心がけています。仕事が忙しい時、時間を作る努力をしています。

堀江広子〓飼猫のハナは今年で十六歳、人なら八十歳くらいだという。最近、外に出たがることもなく、昼間はずっと眠っていて、夜になると甘えに起きてくる。ご飯は明け方に食べる。人間のよう、に容貌が酷く変わる訳ではないのでずっと可愛い。そのハナに向かい、私たち夫婦よりも長生きしたら、あなたは飢え死にする運命なのだからそろそろ寿命を全うしてねと悲しいことを思うこの頃です。片桐公男〓遺稿と思ひ昨年出版した「ニッポンの桜と梅アルバム」(出版・こまめ書房)は、半年で好評完売しました。それに懲りずにカメラ持参で蜜蜂のごとく花々を求め各地を訪ね歩いていきます。門馬徳行〓韓国ドラマをよく見ている。最近、印象に残ったのが「終末のフルール」。原作は伊坂幸太郎。韓国に小惑星が200日後に衝突するという話。富裕層や権力者は早々に国外に脱出。残され

た普通の人々の明日なき生活が描かれる。主人公の女教師が、子どもたちを救うべくジャンヌダルクのように最後まで悪と戦う。群像劇のためか話がやや散漫で評判は良くないが一見の価値がある。機会があれば是非!

久保嘉之〓旧職、我が家に珍事が発生。何と便器の中から蛇が出現したのである。鎌首をもたげ、チロチロと舌を出している。体長は1m位か。この季節冬眠しているのではと訝しみつつ、妻と娘が騒ぎ立てるので、スチール製のトンネルで首根っこを挟み引張り出すことに。だが抜けぬ。どうやら尻尾の先を何かに絡めている様子。完全に体が便器の外へ出る迄待つことにする。小一時間後、首をトングで挟み、尻尾を私の手首に巻きつけた状態で、少し離れた林の中迄運び、放した。蝮ではなかったし、害はなからう。手首に巻きた尻尾の感触で、子供の頃よく蛇をつかまえて遊んだ事を思い出した。ちよっぴり懐かしかった。

星文子〓わざわざ一年で一番暑い季節に?と友だちに呆れられながらソウルに行ってきた。事前のリクエストが功を奏して鶏の身をほぐしてかき氷をたつぷり載せた夏限定の極細の冷麺と、東京ではお目にかかれないマクワウリを思う

存分堪能してきた。

韓国映像資料院ではこの度映画を作る側と評論家たちとの視点に分けて新たに韓国映画100選を選出したので、その資料を集めに資料院にも行く予定だったが、ソウルは大雨が降って肌寒い日もあり、酷暑の日もあった。しかも後で確認したところでは休館中だったそうでミッションは果たせなかった。後日を期したい。

中田好美〓放射線によって稲の遺伝子を破壊し、カドミウムを吸収しにくくする品種「コシヒカリ環1号」が2015年に作られた。このコシヒカリ環1号とあきたこまちの交配種である「あきたこまちR」が誕生し、2025年から秋田県の主力品種であるあきたこまちから、あきたこまちRに全量切り替えていく方針が秋田県議会によって報告された。インドでは3000年以上前から栽培されているポツカリという在来種があり、自然のなかの進化によってカドミウムの集積が少ないことが研究で報告されている。岡山大学では、このポツカリとコシヒカリを交配し、収量と食味はコシヒカリと変わらず、カドミウム低集積品種を作ることに成功している。収量減少や稲育成に必要なマンガンも吸収しにくいと言われるあきたこまちRより、交配によって作られた

お米を食べたいと思った。購入者を選ぶ権利があればいいが、あきたこまちRをあきたこまちの表記として販売できるようにする動きもあり、お米を買うのも大変な時代になった。農家さんから直接あきたこまち玄米を購入しているが、今の品種を可能な限り買いつけた

い。関田孝正〓本誌に40年にわたって寄稿してくれた鈴木輝夫氏の文章をまとめて、一冊の本にしました。『若き日の映画への熱狂』(四六判220頁・1980円)です。映画への想いは一貫して変わることなく、面白く読めます。ご一読ください。書店・アマゾンで注文できます。今号は3人の方が「オツペンハイマー」について書いています。日本を決定的な敗戦に追い込んだ恐ろしい兵器を開発した人物として興味はつきません。数々の力作を作ってきたクリストファー・ノーランだからこそ作り得た映画かもしれません。私は今年、後期高齢者1年生、つまり75歳。創刊号から執筆につきあってくれている友人から、「いつまで続けるの」と聞かれ、「今44号だから50号までは作りたい」と答えた。その時には81歳だ。これからいつ体に変調をきたすかわからない。1年1年が勝負だと思っている。

人の世の摩訶不思議

この映画は老人施設での殺人事件から始まる。100歳の老人が死ぬ。人工呼吸器が何者かによって止められたのだ。

施設の女性介護士・松本（財前直見）が疑われる。介護士と看護士は待遇に差があり、「看護士に差別されている」と思った介護士が施設の運営者に怨みをもった」という見たてだ。神経を擦切らせるような尋問が若い刑事・濱中（福士蒼汰）とベテラン刑事・伊佐美（浅野忠信）の二人によって続けられる。冤罪に持ち込まれる恐れ濃厚。介護士は精神的にまいり、警察での取り調べの後、赤信号にもかかわらず車で突っ切って衝突事故を起こす。自殺を図った――。

若い刑事・濱中は松本は「白」（無実）だと思ふのだが、ベテラン刑事・伊佐美は上層部の意向を疑いもせずに「黒（犯人）だ」と決め付け、濱中にも有無を言わさずに取り調べを行わせる。「若いくせに捜査の何たるかを知っているのか」と伊佐美からしよつちゅう頭

湖の女たち

を叩かれている。パワハラだ。

伊佐美は、かつて50人の死者を出した薬害事件の捜査を担当していたが、上層部から捜査中止の命令を受ける。上からの政治的な圧力がかかったのだ。今はパワハラに走る男だが、かつては正義感に溢れていた。

施設で殺された100歳の老人がかつてその薬害事件に関わっていたことを知った女性記者（福地桃子）が施設に取材にやってくる。女性記者は殺された老人の妻（三田佳子）から、墓場に持って行くつもりだったという話を聞く。戦時中の満州での話だ。薬害事件に関わった医師会会長がかつて子供の頃、凍った満州の湖のボート小屋で集団でロシアの少女と日本人男児の殺人に関与したと。夫（殺された老人）はかつては731部隊の上官だったことも明らかに。子供達は731部隊の仕事を知って、大人の真似をしたとみられる。731部隊は、罪のない中国人を「丸太」と称して人体実験に使ったのだ。

北海道の広々とした雪の大地を

満州の凍った雪の積もった湖に見立てて撮ったのだろう。青い空と白い雪のコントラストが美しく、女性の口から「世界は美しいと思つた。だが、その子供たちの死を知ってからは世界が美しいと思つたことはない」という言葉がこぼれる。

さて、物語の本筋と思えるのは、若い刑事・濱中と、松本といつしよに仕事をしていた女性介護士・豊田佳代（松本まりか）との関係だ。豊田を殺人事件の関係者として取り調べをしたり、豊田の車に事故で追突されたりしているうちに、豊田に恋愛感情を抱く。濱中は豊田に夜の車の中の自慰行為を見せたり、女に痴態を強要したり、女は殺しは自分がやったと唐突にしやべりだしたり、挙句の果てはと――。男と女の仲はわからない。豊田は早くに母親をなくし、父親から性的虐待を受けていたらしい。濱中はパワハラでストレスが昂じていたことが行動の遠因なのか。

かつて実際に障害者施設で殺傷事件があつた。生産性のない生きる資格がないものは死ぬべきだという人命軽視の身勝手な考えによる犯行だった。100歳の老人も

同じような考えで殺されたのだ。戦時中、日本軍の731部隊が中国で行った人体実験も敵国の人間であるならば何をしてもよいという愚かな恐ろしい考えによるものだ。100歳の老人はこの731部隊に関わっていた。因果応報というべきか。罪もない人々を毒牙にかけた人間が、まっとうな生を終えられず抹殺されてしまったのだ。

この映画は屈折した恋愛感情をもつ男と女の愛の物語だ。どんな映画においても男女の愛はいろいろな形で描かれる。どれひとつとして同じものはない。いくつ見せられても飽きることがない。それだけ男と女の物語は面白い。

老人施設の殺人と薬害事件に関わる人間関係が絡み合い、元々正義感の強いパワハラ上司と彼に逆らえないその部下、さらに男女の複雑な関係が絡み合い、背後には日本の戦時中の歴史も影をおとし、政治権力による隠蔽も常でといった具合に、不条理なドラマが立ち現れる。一筋縄ではいかない人の世の魔訶不思議。

原作は吉田修一の同名の小説。脚本・監督は大森立嗣。

（関田孝正）